

目 次

幼児教育科 1 回生 2021 年度入学生	幼児教育科 2 回生 2020 年度入学生		
日本の歴史……………	5	日本国憲法……………	49
私の人生と信州無言館への旅……………	6	英語 C……………	50
ゆずのお寺で空海を学ぶ……………	7	コンピュータ・リテラシ C……………	51
人権を学ぶ……………	8	体育理論……………	52
生物の多様性……………	9	体育実技……………	53
英語 A……………	10	キャリアデザイン II……………	54
英語 B……………	11	保育内容の指導法(健康 I)……………	55
中国語 A……………	12	保育内容の指導法(健康 II)……………	56
中国語 B……………	13	保育内容の指導法(人間関係)……………	57
コンピュータ・リテラシ A……………	14	保育内容の指導法(環境)……………	58
コンピュータ・リテラシ B……………	15	保育内容の指導法(言葉 I)……………	59
キャリアデザイン I……………	16	保育内容の指導法(言葉 II)……………	60
幼児と健康……………	17	保育内容の指導法(造形表現 I)……………	61
幼児と人間関係……………	18	保育内容の指導法(造形表現 II)……………	62
幼児と環境……………	19	保育内容の指導法(音楽表現 I)……………	63
幼児と言葉……………	20	保育内容の指導法(音楽表現 II)……………	64
幼児と表現……………	21	保育内容の指導法(総合表現)……………	65
表現技術(ピアノ I)……………	22	教育制度論……………	66
表現技術(ピアノ II)……………	23	特別支援教育・保育演習……………	67
表現技術(造形 I)……………	24	保育方法論……………	68
表現技術(造形 II)……………	25	乳幼児理解……………	69
保育内容総論……………	26	教育相談……………	70
教育学……………	27	教育実習……………	71
教職・保育者論……………	28	教育実習指導……………	72
教育心理学……………	29	保育・教職実践演習……………	73
特別支援教育……………	30	社会的養護 II……………	74
教育課程論……………	31	子ども家庭支援の心理学……………	75
教育実習……………	32	子どもの食と栄養……………	76
教育実習指導……………	33	乳児保育 II……………	77
保育原理……………	34	子育て支援……………	78
子ども家庭福祉……………	35	保育実習 I(福祉施設)……………	79
社会福祉……………	36	保育実習指導 I(福祉施設)……………	80
子ども家庭支援論……………	37	保育実習 II……………	81
社会的養護 I……………	38	保育実習指導 II……………	82
子どもの保健……………	39	保育実習 III……………	83
乳児保育 I……………	40	保育実習指導 III……………	84
保育実習 I(保育所)……………	41	児童館の機能と運営……………	85
保育実習指導 I(保育所)……………	42	児童館の活動内容と指導法……………	86
保育実習指導 I(福祉施設)……………	43	こども音楽療育演習……………	87
こども音楽療育概論……………	44	こども音楽療育実習……………	88
ゼミナール I……………	45	ゼミナール II……………	89

科目ナンバリングについて

下表の3つの記号を組み合わせたものを「科目ナンバリング」と言います。

科目ナンバリング = 科目区分 + 科目レベル + 授業形態

科目区分		記号
基礎		
一般	文化と歴史	LH
	社会と人間	LS
	地球と自然	LN
外国語		LF
情報処理		LI
保健体育		LP
キャリア		LC
専門		
保育内容・領域		MF
指導法		MT
保育教職基礎		MB
保育福祉		MW
関連・発展科目		MA
ゼミナール		MS

科目レベル	記号
レベル	
概論・入門	<u>1</u>
詳細・発展	2

授業形態	記号
講義	<u>L</u>
演習	E
実技・実習	P
現地実習	T

これは科目の特徴を表す記号で、例えば「社会福祉」の場合、上の表で

保育福祉に関する科目 = MW, 概論・入門的科目 = 1, 講義による授業 = L
なので「MW1L」が科目ナンバリングです。



講義要綱

幼児教育科 1 回生
2021 年度入学生

日本の歴史

原田 敬一

LH1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術	○	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		

幼児教育科
講義要綱
1年次

授業内容

● 目的と概要

【講義の狙い】

歴史を暗記ものと思っていないですか。私は、歴史は、素材を時間と空間にとって、考えていくものだと考えています。小さな材料から少しずつその時代や社会を見えるようにし、意味を考えてみる。歴史好きも歴史嫌いも引き受けたい。

【講義の概要】

主に日本史に素材を取り、たまに世界史にも目を向ける。プリントやパワーポイントも使うが、受講生との質疑応答から授業を始める。

● 到達目標

履修のルール

特になし

授業計画

1. 〈歴史〉って何?—いざ入門	私たちの話している日本語はいつから日本語なのか。平安時代の謎々「父と母」から始まります。古代語から現代語への歴史。知識から思考力への旅。
2. 〈人類の誕生〉—サルからヒトへ	地球の誕生、蛋白質の発生、生命の誕生、と長い物差しの中に、人類史を置いてみるとどうなりますか。
3. 人は何を食べていたのか—穀物とイモ	主食に何を食べるのか。人類はそれと格闘しながら30万年を生きてきました。穀物派、イモ派、トウモロコシ派など。その違いが何にたどり着いたのか。
4. 〈国〉の誕生—その起源	日本列島にいつ〈国〉が生まれたのか。何が備わっていたら〈国の誕生〉になるのでしょうか。〈にほん〉ではなく〈じつほん〉だったかも。サッカーも取りあげるか。
5. 蝦夷・熊襲・隼人—周辺の人々	日本列島にわたって来た人類は、誰だったのか。8世紀の史料は、漢字を使ってさまざまな表現をしています。律令国家との関係もさまざまでした。
6. 富山県・逆さ日本地図 —「環日本海・東アジア諸国図」の面白さ	地図は空間を記録する一つの方法です。1994年に作成された富山県の地図(2012年改訂)は、今まで見えていなかったことが見えてきます。
7. 〈地球は丸い〉—野菜の世界史	何が野菜で何が果物、というよくあるクイズ。ではなく、私たちの食べている野菜は、いつから食べられるようになったのだろうか。
8. 〈#わきまえない女〉たちの時代	男らしさ、女らしさ、という感覚の古さ、と言われて数十年。女性も男性も活躍したから今の人類社会ができたのだけど。時代を超越して取り上げてみよう。
9. 〈刀剣乱舞〉—いつから刀は大事になったのか	邪気払いに使う大事なものは何? 刀大好きな人は、もう一度考える機会を持ちましょう。
10. 〈戦国時代〉の意味	アニメでもテレビでも小説でも人気のある〈戦国時代〉。ヒーローがいっぱいて活躍する、そんな時代、と思ってませんか。日本列島の外からも見てみましょう。
11. 〈江戸時代〉の面白さ	〈江戸しぐさ〉は現代人の創作ですが、もっと面白い江戸時代人。鎖国はしていても世界が江戸にあった。
12. 〈憲法〉の世界史	日本は大日本帝国憲法と日本国憲法を作りました。憲法を持たない近代国家はUK。
13. 〈50年戦争〉—日本と世界	近代日本は、どこまで戦ってきたのでしょうか。戦争を長い時間枠で見直してみよう。
14. 〈戦後〉って何?	いつから「戦後」でしょうか。それに先立つ用語は何? 「戦後」で捉えられる事と捉えられない事。
15. 〈まとめ〉	15回の講義をまとめ、振りかえる。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	40	
レポート		
その他	60	授業への参加状況 30% 授業内の小テスト 30%

教科書等

● 教科書等

特になし。

● 参考書

予習・復習

参考文献は毎回示すので、できるだけ多く読んでほしい。

オフィスアワー

授業前後に適宜対応します。

実務経験

私の人生と信州無言館への旅

窪島 誠一郎・黒田 浩継

LH1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		◎ 4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		

授業内容

● 目的と概要

窪島誠一郎の人生から人間の生き方・人生哲学を学ぶとともに彼の歩んだ時代の文化・経済・歴史を学ぶ。
この授業は、信州「無言館」館主・窪島誠一郎の歩んだ人生の軌跡(哲学)を本人の語りから学ぶことをねらいにしています。

● 到達目標

本人の語りを聴き取り感想を話す。絵画の鑑賞力を身に着けること。信州の旅と無言館でのフィールドワークを楽しむ。

履修のルール

- ・ 本学の1回生を対象の選択必修科目です。旅や絵画の好きな人、人生について考えたい人はぜひ受講ください。
- ・ 2回生、他大学の学生も希望者は受講できます。

授業計画

1. 「あたえられた命」の大切さ、「生きる意味」について考えます。
2. 私の出自、疎開経験、太平洋戦争開戦時の社会状況についてお話します。
3. 幼少時から青春、貧困、挫折、絶望の体験をお話しします。
4. 東京オリンピック、高度経済成長期、水商売繁盛記をお話しします。
5. 画家や小説家や戯曲家への憧れと4店舗の店主に。
6. 「美術館をつくりたい」夢を抱く。
7. 長野県上田市に「信濃デッサン館」、続いて「無言館」開館への道のりをお話しします。
8. 一年間の授業をふりかえり、みなさんの質問、感想に応えます。
9. 信州の旅1(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
10. 信州の旅2(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
11. 信州の旅3(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
12. 信州の旅4(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
13. 信州の旅5(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
14. 信州の旅6(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)
15. 信州の旅7(現地、美術館、信州の風景、食べ物に親しむ)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業参加(ミニ感想)フィールドワーク参加感想・期末レポートを総合して評価 授業態度出席(40)とフィールドワーク(信州1泊2日宿泊を伴う)(40)で学んだこと。写真や感想などドキュメントをレポート(20)します。授業中にレポートの方法をお知らせします。

教科書等

● 教科書等

図書館にある窪島の著作を随時借り出してください。

● 参考書

授業中にも紹介します。

予習・復習

窪島誠一郎の書籍が本学図書館に50冊ほどあります。気に入った本を借りて読んでみてください。感想があれば授業でお聞かせください。

オフィスアワー

窪島・黒田が随時相談させていただきます。

実務経験

ゆずのお寺で空海を学ぶ

高橋 成明

LH1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		◎ 4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		

授業内容

● 目的と概要

21世紀は「この時代の時代」といわれている。物質的な進歩が見られた反面、自然環境の変化・感染症等による世界的な国難ともいえる状況が発生している。さまざまな社会状況の変化の中で日々の生活をどう生きていくのか、を「豊かな心を育む」ともいわれる仏教の教えを中心に、なるべく平易な言葉・表現を用いながら皆さんと共に考えていきたい。

● 到達目標

父・母をご縁としてこの世に生まれた私たちが、さまざまな状況変化の中で、楽しく心地よく生きていくためのヒントを見出す。また、盛松寺での写経体験や境内に咲く蓮の観察を通し、仏の説く自然の道理や真理に触れる機会としたい。

履修のルール

授業計画

1. 空海に学ぶ 一庶民に開かれた教育一
2. 「高野街道と柚子みそについて」 於 盛松寺※お茶菓子つき
3. 自然の道理と〈いのち〉の誕生
4. 生かせ いのち 一すべての〈いのち〉はつながっている一
5. こころ（意識）と体
6. こころの栄養
7. 人の幸せは「二元論」から生まれない
8. ありがとう 一恩に報い、感謝の心で一
9. ありがとう 一自利・利他を生きる一
10. 写経体験 於 盛松寺※お茶菓子つき
11. チベット仏教にみる死生観
12. 希望の中に幸福を見出す
13. 境内に咲く蓮の観賞 一蓮の花托を使ったリース作り一 於 盛松寺※お茶菓子つき
14. 慈悲の愛について
15. 楽しく幸せに生きる 一われわれの目指すべき理想像一

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・受講態度（40%） ・レポート提出（60%） 授業で取り上げた課題について自分の意見を述べるレポートを1回実施する。

教科書等

- 教科書等
配布プリント

- 参考書

予習・復習

オフィスアワー

実務経験

人権を学ぶ

黒田 浩継

LS1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		◎ 4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		

授業内容

● 目的と概要

- ・社会に現実に存在する人権問題の具体的な事例を当事者の視点から考察し、人権尊重の重要性・必要性について理解を深める。
- ・人権問題を自らの生き方につなげ、人権を尊重する人間として、他者との関わりについて考え、実践する力を身に付けることをねらいとする。

● 到達目標

- ・人権に関わる様々な問題についての理解を深め、課題解決に向けた実践力を身に付ける。
- ・様々な人権問題を自分事としてとらえ、将来の教育・保育実践に役立つ力を身に付ける。

履修のルール

- ・本学の1回生を対象の選択必修科目です。
- ・2回生、他大学の学生も希望者は受講できます。

授業計画

1. ガイダンス「人権を学ぶ」で何を学ぶのか？
2. 「人権」ってなに？ 一誰もが幸せに生きていくために
3. 子どもの人権1「子どもの権利条約 一子どもは権利の主体」
4. 子どもの人権2「児童虐待と体罰」
5. 子どもの人権3「いじめとハラスメント」
6. SDGsと人権1「子どもの貧困問題」
7. SDGsと人権2「平和と戦争と人権」
8. SDGsと人権3「ジェンダーと男女平等教育」
9. 性的マイノリティの人権 一性の多様性
10. 障がい者の人権と合理的配慮 一ともに生きる社会とは
11. 違いを豊かさに1「在日韓国朝鮮人の人権問題」
12. 違いを豊かさに2「多文化共生社会の実現に向けて」
13. 同和問題 一部落差別の歴史
14. アサーション 一相手を傷つけない自己表現
15. まとめ 一子どもたちの人権を尊重するために

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を実施する(配布資料、ノート持ち込み可)。
レポート		
その他	40	受講態度、授業への参加・取り組み姿勢、ミニレポートの提出

教科書等

● 教科書等

講義で配布する資料

● 参考書

授業中に適宜紹介する

予習・復習

オフィスアワー

実務経験

大阪府教育庁、大阪府教育センターにおいて人権教育を担当。この経験をもとに人権についての基本的な内容について指導する。

生物の多様性

角谷 邦明

LN1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術	◎	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		

授業内容

● 目的と概要

- ・生物多様性とは何か?どのような概念か?今日的課題は何か?などを学ぶ。
- ・生命5億年における生物と生態系の多様化、環境の変遷など歴史科学としての視点を学ぶ。
- ・野外観察や動物園実習などで学ぶ中で、子どもたちと同じ目線で自然に向かい関心を持つスキルを身に着ける。

● 到達目標

- ・生物多様性とは人間の生活や文化活動、生活の安全などと深く結びついていることを理解する。
- ・生態系を「保全し、自然と共存していくために私たちに何ができるのか」この課題についてヒントを得る。

履修のルール

- ・自然の中で遊んだりして過ごした自分の体験を整理しておく事。
- ・高校の理科学分野の学習内容を復習しておくことが望ましい。
- ・「生物多様性」をキーワードとして情報に関心を持つ事。

授業計画

1. 「生物多様性」で何を学ぶか?そのキーワードは?
2. ホットスポットー日本列島の豊かな自然とその危機
3. 里地里山の生物多様性と生活ー熊取町での保全活動を事例として
4. 生命の進化と多様性ー過去に学ぶ(ビッグ・ヒストリー)
5. 中生代の生態系ー恐竜の繁栄と絶滅
6. 哺乳類の進化を骨で学ぶー個体発生と系統発生
7. 人類の進化と移動ー人類5万年の移動と感染症
8. 動物園は「どこでもドア」ーその歴史と今日的役割
9. 天王寺動物園実習1(午前)
10. 天王寺動物園実習2(午後)
11. 動物園のまとめー園外活動のプログラム
12. 環境問題と生物・人類の未来
13. 災害と生活ーその時どう行動するか
14. 環境保全の活動と保育
15. まとめー環境知性を保育に生かす

〈観察実習の概要〉

・構内の植物観察 ・筍の解剖と調理 ・美味しい料理は科学

受講期間中の講義に関わる出来事は、随時投げ込み教材として扱う。また、コロナと生物多様性について新しい知見や日本や世界の動向についても紹介したい。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験で70% (配布資料、ノート持ち込み可)
レポート	0	
その他	30	レポートや毎回の受講カードのコメント、受講態度などで評価30%

教科書等

● 教科書等

- ・講義で配布する資料
- ・天王寺動物園実習(実費入園料¥500+現地までの交通費が必要。)

● 参考書

- ・高校教科書、図説
- ・参考になる書籍や新聞やネット

予習・復習

- ・予習のポイントは毎日の生活の中の生物多様性である。(自分の関心や気になった事を意識する事)
- ・復習のポイントはノートや資料を整理する事である。

オフィスアワー

火曜日昼休み

実務経験

英語 A

Peter Shelly

LF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・ 春夏／秋冬		[幼選]

授業内容

● 目的と概要

This course (15 lessons / classes + final exam) focuses on oral communication skills for students at a beginner to high-beginner level of English ability. It is especially suitable for learners whose reading, grammar, and vocabulary skills are greater than their oral production ability. A willingness to actively try to speak English in class and participate in role playing dialogues is expected. Each lesson is topic-based and centers on functional English a student can use outside of class. The settings encountered reflect typical situations that these students may find themselves in. Although the course is conducted using American English, non-American native speakers can be heard on the CD and supporting material.

The course consists of 15 lessons, plus a final exam. Fourteen units will be covered, each within a 90 minute class.

● 到達目標

The course's learning objectives are intended to help each student develop his/her confidence and ability in using English to actively communicate with native speakers. We will explore each topic and expose ourselves to the target language through two-part listening activities. Two simple model dialogues will be presented to, and practiced by the class each lesson. Some memorization of basic phrases is required. Through further controlled practice using visual and written prompts, students will expand their ability to communicate in that particular social situation.

履修のルール

Due to the nature of the subject material (conversational and listening skills development), each student is strongly urged to come to every lesson and actively participate in class. Additionally, each student is expected to bring a basic English/Japanese dictionary to every lesson. This can be either a paper or electronic dictionary, but NO cell/smart phones can be used during class.

授業計画

1. Class Introduction / Tell me about your family (start)	16. Final Exam
2. Tell me about your family	17.
3. I like classical music best	18.
4. What blood type are you?	19.
5. What a beautiful coat!	20.
6. Would you like to come over for coffee?	21.
7. I'm taking a computer class these days	22.
8. I'm going to wash the car	23.
9. Review of Units 1, 2, 3, 4, 5, 8, 9 + Midterm exam	24.
10. Do you remember when you were in high school?	25.
11. Would you like to try some Japanese food?	26.
12. We're flying to Singapore	27.
13. I have a terrible headache	28.
14. I'm afraid of snakes	29.
15. Let's keep in touch!	30.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	24	Final Exam [24%]
レポート	0	
その他	76	- Non-academic grade [20% total] - Academic grade [56% total] ・ Homework (32%) ・ Mini exams (16%) ・ Mid-term Exam (8%)

教科書等

● 教科書等

Making Friends 2 with Self-Study CD マクミラン ランゲージハウス ¥2,530 (税込)

● 参考書

予習・復習

Please prepare for each class by reading the unit's main conversation beforehand, as well as reviewing any vocabulary or phrase provided. Additional material or assignments to help you become familiar with the topic may be provided ahead of time. Please actively participate in each class, complete the assigned homework on time, and learn the vocabulary and phrases covered in each unit.

オフィスアワー

I do not hold formal office hours. I will do my best to find a mutually convenient time that we can meet to discuss any questions, problems, or concerns you may have. Below are the ways you may contact me to set up an appointment:

- ・Mr. Peter D. Shelly
- ・peterdshelly@gmail.com (the easiest and best way to contact me - please include your name in English)
- ・0721-68-8636 (home telephone _ I have no cell phone)
- ・3-21-3 Mikanodai, Kawachinagano-shi, Osaka-fu 586-0044

実務経験

英語 B

鯨坂 はるよ

LF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・ 春夏／秋冬		[幼選]

授業内容

● 目的と概要

〈目的〉英語の絵本を読むことで、英語を学び、英語圏の子どもの世界、子どもの文化も学ぶことを目的とする。小学校から英語を学ぶこととなり、英語を取り入れる幼稚園、保育所、こども園が増加しているので、幼稚園、保育所、こども園でどのように英語を取り入れているのかも知る。

〈概要〉(1) 英語の絵本を読み、語句の意味、文法を学び、絵本の世界を知る。

(2) 英語圏の子どもの世界や英語圏の子どもの遊びを知る。

(3) 英語圏の子どもの遊びや英語の手遊びを体験する。

(4) 幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を体験する。

(5) 自分で絵本のストーリーを考え、英語にし、英語の絵本を作成する。

● 到達目標

(1) 英語の知識、英語圏の子どもの世界、英語圏の子どもの文化の知識を習得する。

(2) 外国の絵本の知識を習得する。

(3) 幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を理解する。

(4) 英語の子どもの遊びや手遊びができる。

(5) 英語のオリジナル絵本を作成する。

履修のルール

授業計画

1. 授業の進め方、様々な海外の絵本、先輩の作成した英語絵本の紹介
2. 英語の絵本 Little Blue and Little Yellow の作者を知る
3. Little Blue and Little Yellow の内容を理解する
4. Little Blue and Little Yellow の作者が伝えたいこと
5. 英語の絵本、イギリス民謡発祥の英語の手遊び
6. 英語の絵本に出てくる遊びを学ぶ
7. 英語の絵本に出てくる遊びを学び、体験する
8. 幼稚園、保育所、こども園での英語
9. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の背景を知る
10. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の内容を理解する
11. アメリカ民謡発祥の英語の手遊び
英語の絵本のストーリーを考える
12. 絵本のストーリーを英語にする
13. 英語の絵本を作成する
14. 作成した絵本の発表
15. 作成した絵本の発表のふりかえり、試験について

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	40	英語の絵本も作成し、その絵本も評価に入れる。

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

予習・復習

授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

実務経験

中国語 A

朴 雪梅

LF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼選]

授業内容

● 目的と概要

初心者が中国語に興味を持ち、正しい発音によって基礎から効率的に中国語を学習できるということ。中国語の入門の基礎を確実に身につける。また、中国語のリスニングを練習するために、アニメで中国語学習シリーズの動画を活用して、楽しく中国語を勉強できるようにする。

● 到達目標

- ①中国語の発音をしっかりマスターする。
- ②日常生活でよく使用される単語・会話を覚えて、大いに活用できるようにする。
- ③中国の文化や中国人の風俗習慣などを理解する。

履修のルール

授業計画

1. DVD で学ぶ中国文化について紹介する
2. 発音編 第1課 身の回りの簡単なあいさつから発音のしくみ、声調の練習
3. 発音編 第2課 単母音と「自己紹介①」(初対面の基本的な挨拶)
4. 発音編 第3課 複合母音と「自己紹介②」(家族や趣味等)
5. 発音編 第4課 複合母音と鼻母音「自己紹介③」(国、出身地等)
6. 発音の復習、学習進度チェックテスト1(会話試験)
7. 発音編 第5課 子音と「これは何ですか」
8. 発音編 第6課 子音とアニメで中国語学習シリーズの動画
9. 発音編のまとめ、発音の練習
10. 数の数え方(数詞)と物を数える時の単位(量詞)、助詞
11. 「買い物」値段の聞き方について
12. グループに分けて買い物の会話を練習する
13. 7回～12回のまとめ、学習進度チェックテスト2
14. 発音、単語のまとめ
15. グループ分け、日常生活によく使う表現を演習する

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート		
その他	50	受講態度 30 学習進度チェックテスト 20

教科書等

● 教科書等

プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適切に紹介する。

予習・復習

予習：シラバスを参照に自主的に調べる。
復習：授業中に復習内容を指示する。

オフィスアワー

木曜日 非常勤講師控室

実務経験

中国語 B

朴 雪梅

LF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼選]

授業内容

● 目的と概要

観光立国を目指している日本は、円安の影響と外国人に対するビザなどの緩和政策により、海外からの観光客がものすごい勢いで増えつつある。そのうち、「爆買い」ブームを起こし、日本全国を席卷しているのが中国人観光客である。後期から旅行会話を中心とし、ショッピングや観光などそれぞれの中国人観光客対応に必要な会話フレーズについて紹介する。

● 到達目標

- ①中国語の発音をしっかりマスターする。
- ②中国語の旅行会話を大いに活用できるようにする。
- ③中国人の観光客を対応できるようにする。

履修のルール

授業計画

1. 「月日の表現、曜日の表現」(指示代名詞、名詞述語文)
2. 「時刻の表現、年齢の表現」(時刻の言い方、時間詞、時間の長さを表す語)
3. 「私は～します、したことがあります」(動詞の文の表現、「疑問・推量」、「提案・命令」を示す語気助詞「吧」)
4. 「ホテルのフロントで」(完了を表す「了」の使い方、「もうすぐ～だ」という表現、選択疑問文「还是」)
5. 1回～4回のまとめ、学習進度チェックテスト3
6. 旅行会話1—交通機関(乗り物—地下鉄、バス)
7. 旅行会話2—交通機関(乗り物—タクシー)
8. 旅行会話3—観光(観光案内所、道を尋ねる等)
9. DVDで日本の観光名所①、挨拶や会話の練習①
10. DVDで日本の観光名所②、挨拶や会話の練習②
11. DVDで日本の観光名所③、挨拶や会話の練習③
12. 6回～11回のまとめ、学習進度チェックテスト4
13. グループに分けて、観光プランを立案する
14. 各グループの観光プランを発表する
15. 後期のまとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート		
その他	50	受講態度 30 学習進度チェックテスト 20

教科書等

● 教科書等

プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適切に紹介する。

予習・復習

予習：シラバスを参照に自主的に調べる。

復習：授業中に復習内容を指示する。

オフィスアワー

木曜日 非常勤講師控室

実務経験

コンピュータ・リテラシ A

森 大樹

LI1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼選]

授業内容

● 目的と概要

インターネットやメール、文書作成、表計算などコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。

【目的】 本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワード等を使って具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用できる力を習得する。

【概要】 次の授業計画に示したように、ワード等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然と身につくように構成してある。

● 到達目標

「Windows」やワード、エクセル等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的な文書や簡単な表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになることを目標としている。

履修のルール

「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。

授業計画

1. オリエンテーション、似顔絵と自己紹介文作成
2. タッチタイピング (1) タイピング計測
3. タッチタイピング (2) 課題説明
4. タッチタイピング (3) 進捗確認
5. ワード演習問題 (1) 文字入力
6. ワード演習問題 (2) ページ設定、印刷、文字列操作
7. ワード演習問題 (3) 体裁を整えた文書の作成
8. ワード演習問題 (4) 表の挿入
9. ワード演習問題 (5) ワードアート
10. ワード演習問題 (6) 図形描画
11. ワード演習問題 (7) 縦書き文書
12. ポスター制作 (1) 課題説明
13. ポスター制作 (2) 掲載事項とレイアウトの確認
14. ポスター制作 (3) 提出と評価
15. 総合演習問題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度 (40%)、課題等 (60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

教科書等

● 教科書等

『30時間でマスター Office2019(Windows10 対応)』 実教出版編修部編集 実教出版 (2019/09/20) 本体¥1,100 (税込)
自分専用のノート PC を各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。
ノート PC 推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面 10 インチ以上。キーボード付き。

● 参考書

講義時に適宜紹介

予習・復習

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

コンピュータ・リテラシ B

森 大樹

LI1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼選]

講義要綱
1年次

授業内容

● 目的と概要

インターネットやメール、文書作成、表計算などコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。

【目的】 本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。エクセルやパワーポイント等を使って具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用できる力を習得する。

【概要】 次の授業計画に示したように、エクセルやパワーポイント等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然と身につくように構成してある。

● 到達目標

Windows エクセル、パワーポイント等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的なプレゼンテーションや簡単な表の作成がスムーズに出来るようになること。

また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫してプレゼンテーションや表の作成ができるようになることを目標としている。

履修のルール

「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. エクセル演習 (1) 表の作成
3. エクセル演習 (2) 数式と関数
4. エクセル演習 (3) グラフ作成
5. パワーポイント (1) 操作説明
6. パワーポイント (2) 課題と制作
7. パワーポイント (3) 発表と評価
8. スマートフォンと SNS の情報モラル
9. シール制作 (1) 課題説明
10. シール制作 (2) スキャナー操作と印刷
11. おたより制作 (1) イラスト挿入
12. おたより制作 (2) テキストボックス
13. 保育指導案の作成
14. 実習記録の作成
15. 総合演習問題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度 (40%)、課題等 (60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

教科書等

● 教科書等

『30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)』 実教出版編修部編集 実教出版 (2019/09/20)
本体 ¥ 1,100 (税込)
自分専用のノート PC を各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。
ノート PC 推奨スペック→Googleクロームが動作するもの。画面 10 インチ以上。キーボード付き。

● 参考書

講義時に適宜紹介

予習・復習

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

キャリアデザイン I

阪田 啓代

LC1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏秋冬*		

授業内容

● 目的と概要

本講義では、職業に関する基本的な情報・知識を学び、社会人として必要なスキルを身につける。また、幼児教育・保育をはじめ様々な分野で活躍する社会人・職業人の話しや聞き取りを通して、働くことの意味について考える。コロナ禍で仕事を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、自分の将来を描ける職業観を探究しよう。

● 到達目標

- ・現代社会に関心を持ち、職業や労働についての情報・知識を得る。
- ・職業イメージを持ち、卒業後の進路について具体的に考える。
- ・社会人としての基礎的な素養を身に付ける。

履修のルール

15回の授業以外に自己紹介書の作成、春休みの進路面談などへの出席が必要である。

授業計画

1. オリエンテーション／「キャリアとは何か」
2. 現場の求める人材ー短大生に期待するものー
3. ソーシャルスキルを身につける
4. 「働くこと」について考える
5. 進路選択の考え方ー幼保系保育者を選択した卒業生ー
6. 進路選択の考え方ー施設職員を選択した卒業生ー
7. 若者を取り巻く社会経済状況の変化①様々な雇用形態
8. 若者を取り巻く社会経済状況の変化②産業と職業
9. 若者を取り巻く社会経済状況の変化③非正規雇用の現状と課題
10. 求人票の見方ー契約と労働条件ー
11. 求人票の見方ー採用試験の概略と模擬体験ー
12. 進路選択と固定観念
13. 自己分析・自己紹介書の作成①自己棚卸し
14. 自己分析・自己紹介書の作成②大学生活で頑張ったこと
15. まとめー卒業後の進路について考える&春休みの計画ー

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	到達目標に対する理解を問う筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	受講マナー、授業への参加・取り組み姿勢、授業で指示した課題レポートの提出

教科書等

● 教科書等

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

● 参考書

予習・復習

- ・身近な職業人と「働くこと・仕事」について語り、考える。
- ・身近な職業人から授業中に指示した内容について聞き取りを行う。
- ・授業で学んだことを日常生活で活用し、実践する。

オフィスアワー

実務経験

幼児と健康

吉井 英博

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

領域「健康」の指導について、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達などの側面から理解する。

● 到達目標

乳幼児期の運動発達の特徴を通して、身体の諸機能の発達と生活習慣について理解する。また、その健康課題を理解することにより、乳幼児の健やかな発達はどうあるべきかを考える力を身につける。

履修のルール

授業計画

1. 領域「健康」からみる乳幼児期の生活環境
2. 健康とは—その定義と乳幼児の健康の意義—
3. 現代における乳幼児の身体的・生理的発達
4. 発達の特徴からみる乳幼児期の基本的な生活習慣
5. 乳幼児期の運動発達の特徴
6. 乳幼児期に起こりやすい怪我と病気
7. 年齢別、発達の特徴による乳幼児期の生活リズムの形成
8. 保育現場での乳幼児期の遊びと安全への意識
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート	0	
その他	50	学習のまとめの発表内容及び成果 (50%)

教科書等

● 教科書等

秋田喜代美、三宅茂夫監『シリーズ知のゆりかご 子ども
の姿からはじめる領域・健康』みらい ¥2,530 (税込)

● 参考書

予習・復習

授業内で指示する章について、事前に予習をしておくこと。また、既習事項について復習をし、理解を深めておくこと。

オフィスアワー

木曜日以外随時

実務経験

幼児と人間関係

茂野 仁美

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代社会における人間関係の育ちについて理解し、幼児教育における他者との関係の中で育つ、人と関わる力について理解する。

● 到達目標

領域「人間関係」の基盤となる乳幼児期の人間関係の発達について、保育環境を中心として理解する。また、現代社会における乳幼児を取り巻く人間関係についての課題を理解する。

履修のルール

授業計画

1. 乳幼児期の育ちと領域「人間関係」
2. 0、1歳児の人との関わりと保育
3. 2、3歳児の人との関わりと保育
4. 4、5歳児の人との関わりと保育
5. 特別な支援を必要とする子どもの人間関係を支える
6. 子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係
7. 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係
8. まとめ：人間関係を築くことの基本
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験(50%)
レポート	0	
その他	50	授業内での課題やグループワーク(態度や積極性も含む)(50%)

教科書等

● 教科書等

- ・田代和美・榎本真実『演習 保育内容 人間関係—基礎的事項の理解と指導法—』建帛社 ¥1,760(税込)
- ・平成29年度『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550(税込)

● 参考書

予習・復習

シラバスの内容に沿って、教科書を授業前に目を通しておくこと。
授業で配布された、各単元のまとめのプリントに沿って、授業内容をまとめるなどの復習をすること。

オフィスアワー

実務経験

幼児と環境

坂本 渉

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・夏		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

幼児期の保育は環境を通して行うものである。領域「環境」について、保育における子どもをとりまく環境とのかかわりについて実践的に学ぶ。保育における環境の意味や重要性について考えるとともに、体験を通して環境への理解を深めることを目的とする。

● 到達目標

- 1) 子どもと環境とのかかわりについて理解する。
- 2) 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解する。
- 3) 人的・物的環境、空間的環境の構成を具体的に考えることができる。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

授業計画

1. 領域「環境」の意義・ねらい・内容
2. 子どもをとりまく人的環境—友だち・保育者—
3. 子どもをとりまく物的環境①保育室・園庭・遊具
4. 子どもをとりまく物的環境②身近な素材の特性に気づく
5. 子どもをとりまく物的環境③人工物と自然物
6. 子どもをとりまく自然環境—自然を感じとる力—
7. 子どもをとりまく社会的環境—地域社会とのかかわり—
8. 保育における環境の捉え方—環境構成の方法—
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題〔作品含む〕、課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

田宮 緑 『体験する 調べる 考える 領域「環境」第2版』萌文書林
¥2,200 (税込)
どろだんごキット

● 参考書

予習・復習

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。
復習：教科書や配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と言葉

坂本 渉

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

三法令（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領）に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、言葉の育つ道筋と保育者のかかわりや役割について知る。

● 到達目標

- 1) 保育の基本等を踏まえ領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。
- 2) 乳幼児が言葉を獲得していく発達過程を理解する。
- 3) 言葉によって育まれる力を理解し、それらを育むための保育者の指導や支援のあり方について検討することができる。

履修のルール

授業計画

1. 言葉のもつ機能について
2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容
3. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり①言葉の前の言葉（0歳児）
4. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり②言葉を話せるようになってから（1・2歳児）
5. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり③3・4歳児の言葉
6. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり④5歳児・1年生の言葉
7. 言葉と児童文化財
8. 模擬保育：児童文化財を活用した保育
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況（ペアワーク、グループワーク）、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

近藤幹夫ほか 『実践につなぐ ことばと保育』 ひとなる書房 ￥2,200（税込）

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

予習・復習

予習：授業計画に記載されている内容に添って事前に教科書を読んでおくこと。
復習：教科書や配布資料を再読し、授業内容を整理しておくこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と表現

大浦 知加

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・冬		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

幼児の様々な表現を豊かにする表現遊びと、その環境構成や技術を実践的に学ぶ。

● 到達目標

領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方を理解し、知識・技術・表現力を身に付ける。

履修のルール

- ・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。
- ・配布する楽譜類はスケッチブックに貼り保存。
- ・スケッチブック・フェイスタオル持参。
- ・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。

授業計画

1. 幼児の表現における発達の理解
2. 人間関係におけるコミュニケーションでの表現（リトミック）
3. イメージからの表現（音楽・言語・身体表現）
4. 身のまわりの環境からイメージする表現創作
5. 表現を豊かにする言語表現創作
6. 表現を豊かにする身体表現創作
7. 表現を豊かにする造形表現創作
8. グループ表現発表
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	個人発表（課題提出・取り組み等総合）
レポート	0	
その他	50	授業内グループ表現発表（課題提出・取り組み等総合）

教科書等

● 教科書等

- ・鈴木恵津子「改訂 うたって おどって おもちゃ箱1」
教育芸術社 ¥2,420（税込）
- ・スケッチブック ¥300（税込）

● 参考書

予習・復習

- ・授業内容を振り返り、理解を深める。
- ・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深める。

オフィスアワー

火～金曜の昼休み

実務経験

表現技術(ピアノ I)

大浦 知加・寄 ゆかり ほか

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

1 コマをグループ、個人レッスン、アドバイザーレッスン(集中練習)に分割し、授業を行う。

【グループ】 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌い等を総合的に学ぶ

【個人レッスン】 ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏力を身につける。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取り扱いについて理解し、

- ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。(ピアノグレード2修了が単位修得レベル)
- ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
- ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びを数曲、見ないでできる。

履修のルール

- ・イヤホンは各自持っているものを持参。(フォンジャックのみピアノにつけたままにしておく)
- ・必ず爪は短くしておく。長い場合は爪を短くしてレッスンを受講。(長い爪の場合はレッスン不可)
- ・マニキュアも必ず落とす。
- ・ピアノのテキストは各自、自分のテキストを忘れず持参。(忘れて図書館で借りた場合は、その旨、担当講師に授業前に伝える。)
- ・のり持参のこと。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの重要性と楽典チェック / ピアノ個人レッスン
2. 子どもの歌の歌唱(春) / ピアノ個人レッスン
3. 保育現場での手遊び、身体遊び / ピアノ個人レッスン
4. 保育現場での演奏方法 C-dur / ピアノ個人レッスン
5. 保育現場での弾き歌い練習 / ピアノ個人レッスン
6. 保育現場での弾き歌い練習 / ピアノ個人レッスン
7. 保育現場での弾き歌いミニテスト / ピアノ個人レッスン
8. 子どもの歌の歌唱(夏) / ピアノ個人レッスン
9. 保育現場での手遊び、身体遊び / ピアノ個人レッスン
10. 保育現場での演奏方法 G-dur / ピアノ個人レッスン
11. 保育現場での演奏方法 F-dur / ピアノ個人レッスン
12. 保育現場での弾き歌い練習 / ピアノ個人レッスン
13. 保育現場での弾き歌い練習 / ピアノ個人レッスン
14. 保育現場での弾き歌いミニテスト / ピアノ個人レッスン
15. まとめ～弾き歌い・手遊び・身体遊び / ピアノ個人レッスン

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(弾き歌い・ピアノ教則本)ただし、グレード2に到達していること
レポート	0	
その他	50	・授業内ミニチェック ・取り組み状況(意欲・進捗等)

教科書等

● 教科書等

- ・平成29年度幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ¥550(税込)
- ・「改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」教育芸術社 ¥2,200(税込)
- ・スケッチブック ¥300(税込)

● 参考書

予習・復習

- ・授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習する。
- ・季節の歌唱やピアノ以外の表現方法にも日常の中で意識し、保育者としての表現力を磨く。

オフィスアワー

火～金曜の昼休み

実務経験

表現技術(ピアノⅡ)

寄 ゆかり・瀬尾 麻巳 ほか

MF2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

1コマをグループ、個人レッスン、アドバイザーレッスン(集中練習)に分割し、授業を行う。

【グループ】 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌い等を総合的に学ぶ。

【個人レッスン】 ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏力を身につける。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、

- ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。ピアノグレード3修了が単位修得レベル。
- ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
- ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。

履修のルール

- ・イヤホンは必ず持参すること。
- ・表現技術(ピアノⅠ)の単位修得済みであること。
- ・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。
- ・ピアノのテキストは各自、自分のテキストを忘れず持参すること。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの弾き歌い/ピアノ進度別個人レッスン
2. 保育現場での音楽遊び/ピアノ進度別個人レッスン
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/ピアノ進度別個人レッスン
4. 季節の曲の歌唱(秋)とコード奏/ピアノ進度別個人レッスン
5. コードを使って歌の楽しさを味わう/ピアノ進度別個人レッスン
6. 秋の歌唱曲を子どもたちと歌う/ピアノ進度別個人レッスン
7. 保育で使用するコード習得/ピアノ進度別個人レッスン
8. コードを用いた弾き歌い/ピアノ進度別個人レッスン
9. 季節の曲の歌唱(冬)とコード奏/ピアノ進度別個人レッスン
10. 冬の歌唱曲を子どもたちと歌う/ピアノ進度別個人レッスン
11. 実習で弾き歌いする/ピアノ進度別個人レッスン
12. 秋冬の歌唱曲を弾き歌いする/ピアノ進度別個人レッスン
13. カデンツを用いたコード奏/ピアノ進度別個人レッスン
14. 四季を通した弾き歌い/ピアノ進度別個人レッスン
15. 子どもと歌を楽しむ、まとめ/ピアノ進度別個人レッスン

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(弾き歌い、ピアノ教則本) ・ただし、グレード3を修了していること。
レポート	0	
その他	50	授業内ミニチェック、手遊び取り組み状況等

教科書等

● 教科書等

- ・平成29年度 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ￥550(税込)
- ・表現技術(ピアノⅠ)の教科書、スケッチブックを継続して使用します。

● 参考書

予習・復習

ピアノは日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習するようにしてください。

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

音楽教室での指導においては、3歳児からピアノ、エレクトーン指導ほか、打楽器、管楽器指導を行う。現役保育者に対しても、音楽表現に関する研修などを行っている。

表現技術(造形 I)

大松 伸洋

MF1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

幼児にとって描いたり作ったりする造形表現活動はいわば根源的欲求であり、子ども達の成長の大きな原動力である。この時間は、幼児教育者の専門性を裏付ける一つの要素として教育者自身にも美術的素養が求められることについて認識を深め、関連する知識について学び、基礎的技能を養う。

● 到達目標

課題作品制作を中心にした演習を通して、必要な知識を理解するとともに表現技術を習得することを目的とする。

履修のルール

履修上の注意についての詳細は1回目の授業で告知する。

授業計画

1. 造形の基本的とらえ方 豊かな表現への手がかり
2. 基礎的技法の習得 〈技法1〉スクラッチ①
3. スクラッチ②
4. 〈技法2〉デカルコマニー① 〈技法3〉ドリッピング①
5. ドリッピング②
6. 〈技法4〉スタンピング①
7. 〈技法5〉油煙技法 〈技法6〉マーブリング
8. 〈技法6〉マーブリング 〈技法7〉紙版画①
9. 紙版画② 〈技法7〉マーブリング
10. 〈技法8〉ステンシル①
11. ステンシル②
12. 〈技法9〉ブローイング 〈技法10〉ストリングス
13. 〈技法11〉レベレンシー (はじき技法)
14. 11の技法の中から2つの技法を取り入れた作品を制作する①
15. 11の技法の中から2つの技法を取り入れた作品を制作する②

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	制作課題提出
レポート		
その他	100	技法を用いた作品製作を通して、幼児の発達に応じた基礎技法の知識について理解できているか、またどれだけ作品の中に自身の個性を取り入れられたかで評価を行う。

教科書等

● 教科書等

- ・ 槇 英子『保育をひらく造形表現 第2版』萌文書林 ¥2,530(税込)
- ・ 授業毎にプリントの配布する。
- ・ 図画工作セット

● 参考書

予習・復習

- ・ 授業前：予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。
- ・ 授業後：学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計1時間。

オフィスアワー

実務経験

表現技術(造形Ⅱ)

大松 伸洋

MF2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]

幼児教育科
1年次
講義要綱

授業内容

● 目的と概要

前期の表現技術(造形Ⅰ)に続き、技法の習得とグループワークによる作品を制作する。幼児にとって描いたり作ったりする造形表現活動はいわば根源的欲求であり、子ども達の成長の大きな原動力である。この時間は、幼児教育者の専門性を裏付ける一つの要素として教育者自身にも美術的素養が求められることについて認識を深め、関連する知識について学び、基礎的技能を養う。

● 到達目標

課題作品制作を中心とした演習を通して、必要な知識を理解するとともに表現技術を習得することを目的とする。

履修のルール

表現技術(造形Ⅰ)を履修済みであること。

授業計画

- 1.〈技法11〉ローリング(転がし技法)〈技法13〉こすり出し
- 2.〈技法15〉コラージュ①
- 3.コラージュ②
- 4.〈技法16〉シャボン玉アート
- 5.〈技法17〉フィンガーペインティング①
- 6.フィンガーペインティング②
- 7.〈グループワーク〉フィンガーペインティング③
- 8.〈グループワーク〉フィンガーペインティング④
- 9.〈技法18〉フットペインティング
- 10.〈技法19〉シフティング(ずらし技法)
- 11.〈技法20〉紙染技法 〈技法21〉にじみ絵
- 12.粘土を使って遊ぶ①(感触の再発見)
- 13.粘土を使って遊ぶ②(空想の動物を作ってみる)
- 14.粘土を使って遊ぶ③(空想の動物を作ってみる)
- 15.アイデア出しの方法について

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	制作課題提出
レポート		
その他	100	技法を用いた作品制作を通して、幼児の発達に応じた基礎技法の知識について理解できているか、またどれだけ作品の中に自身の個性を取り入れられたかで評価を行う。

教科書等

● 教科書等

- ・槇 英子『保育をひらく造形表現 第2版』萌文書林 ¥2,530(税込)
- ・授業毎にプリントを配布する。
- ・図画工作セット

● 参考書

予習・復習

- ・授業前: 予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。
- ・授業後: 学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計1時間。

オフィスアワー

実務経験

保育内容総論

馬場 住子

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

教育・保育の基本と保育内容について知るとともに保育の一日の流れと保育内容を遊びを中心とした子どもの生活と育ちを踏まえた上で理解する。

0、1、2、3、4、5歳児の発達と特徴を基に実際の保育内容を視聴覚教材等を使って学修する。また、グループワークや遊びの実践を通じて保育内容への理解を深める。さらに、多様なニーズと保育内容とその課題についてもテキストを解説することから学修する。

● 到達目標

1. 教育・保育の基本と保育内容について理解する。
2. 0、1、2、3、4、5歳児それぞれの発達と特徴を基に実際の保育内容を理解する。
3. 多様な保育ニーズにおける保育内容とその課題について理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーションー保育の基本と保育内容ー
2. 保育の一日の流れと保育内容ー遊びを中心とした生活ー
3. 0、1、2歳児の保育内容
4. 3、4、5歳児の保育内容
5. 0、1、2歳児の保育内容の実践
6. 3、4、5歳児の保育内容の実践
7. 保育内容の実践の振り返り
8. 総括ー多様な保育ニーズと保育内容の課題ー
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

保育内容実践における教材作成には200円程度の費用がかかることがあります。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業への参加状況、手作り教材やレポート等の提出物、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

井上孝之 山崎敦子 他編『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論 第2版』みらい ¥2,310(税込)

● 参考書

- ・厚生労働省編著『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)
- ・文部科学省著『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)

予習・復習

予習: シラバスを参考に教科書を読み、実践に備えた準備をしておくこと
復習: 授業内容や実践の振り返りをしておくこと

オフィスアワー

実務経験

教育学

今滝 憲雄

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

教育実践を研究し構想する上で求められる、重要な柱である教育の歴史と原理について、その理論的な到達点を学び、それに対する自己の見解を論じることが出来るようになることを目的とする。

● 到達目標

教育実践を行う上で必要不可欠な知識や基本的理念を把握し、自己の見解を論じることが出来る。

履修のルール

就職を志す受講生であるという自覚に基づき、受講者間における問題意識や考え方について積極的な意見交流を望む。

授業計画

1. 教育学とは何か
2. 教育の歴史 1 近代以前の教育
3. 教育の歴史 2 教授学の成立から合自然の教育学へ
4. 教育の歴史 3 国民国家の教育学から子ども中心の教育へ
5. 教育の歴史 4 効率主義の教育から総括へ
6. 日本の授業と授業研究の歴史
7. 混迷する時代の教育改革 1 新自由主義の改革
8. 混迷する時代の教育改革 2 新国家主義の改革
9. 混迷する時代の教育改革 3 教育改革国民会議の提案
10. 新時代の教育の構想 1 現代子ども論の検討
11. 新時代の教育の構想 2 現代教師論の検討
12. 新時代の教育の構想 3 現代学校論の検討
13. 教育課程の自主編成の歴史
14. 教育課程の自主編成の構想
15. 教育課程の自主編成試論の作成

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	平常点 30 点 (参加状況および積極的参加態度) に加え、授業中に課す提出物 40 点 (5 種類を予定)。最終課題 30 点。合計 100 点。

教科書等

● 教科書等

毎回レジュメおよび資料を配布する。

● 参考書

授業中に適時、紹介する。

予習・復習

各テーマ毎に資料類を再読し、最終レポートの作成に向けて自分なりの意見をまとめておくこと。また事前に配布する資料に関しては、予習を行うこと。

オフィスアワー

水曜日の授業前後。7 階研究室。

実務経験

教職・保育者論

板倉 史郎・葛目 己恵子

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏×2		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。

● 到達目標

教員・保育者の職務について理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション、授業概要、諸注意 (板倉)
2. 教育とは何か―「教育」と「教師」 (板倉)
3. 教職とは何か①―教師にはどのような資質、能力が求められるか (板倉)
4. 教職とは何か②―教師・教職の歴史、養成・採用・研修 (板倉)
5. 法令から見た教員―教員の種類、身分、服務 (板倉)
6. 幼保連携(一元化)―保育士と幼稚園教員、保育教諭 (板倉)
7. 教員の職務(1) 子どものサインに気づく (葛目)
8. 教員の職務(2) 保護者対応 (葛目)
9. 教員の職務(3) 学級経営 (葛目)
10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点 (板倉)
11. 教員以外の専門職スタッフとの連携・協働―チーム学校 (板倉)
12. 地域社会、保護者との連携・協働 (板倉)
13. 学校・教員をとりまく現状と課題①―教員評価、法定研修、体罰 (板倉)
14. 学校・教員をとりまく現状と課題②―いじめ問題、カウンセリングマインド (板倉)
15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ (板倉)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

寄ゆかり、伊藤一雄編著『新しい保育基礎』サンライズ出版 ¥2,200 (税込)

● 参考書

予習・復習

- ・配布する資料等を整理し、活用する。
- ・授業時に予習、復習について説明する。

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校教員の経験を活かして、子ども理解や保護者対応、幼小連携等について、知識や対応を説明する。

教育心理学

茂野 仁美

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

主に乳幼児期の発達に応じた学びや遊びなどの体験の在り方について学習する。また、人の発達に見通しを持ち、保育・教育を行っていくためには生涯にわたる人の発達や学習方略への理解も必要である。これらについての概要をとらえ、実践の土台となる理論を身につけることを目指す。

● 到達目標

乳幼児期の人の発達の諸理論について、理解する。
人の生涯にわたる発達を見通し、援助・支援のための理論について理解する。
乳幼児期にひつような学びと遊びの関係について、理解する。

履修のルール

授業計画

1. 子どもの発達を理解することの意義
2. 子どもの発達と環境
3. 子ども観・保育観と発達理論からの視点
4. 社会情動的発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知の発達
7. 言語の発達
8. 0,1,2 歳の発達
9. 3,4,5 歳の発達
10. 学童期から青年期までの発達
11. 成人期から老年期までの発達
12. 乳幼児期の学びに関する理論
13. 乳幼児期の学び〈遊び〉の過程
14. 乳幼児期の遊びを支える保育実践
15. まとめ～人の発達と保育の関係～

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験 60% 教育心理学で学んだ基礎的な理論について問う。
レポート	0	
その他	40	授業中の課題への取り組み 40% 毎回学習したことについて、理解できたことや疑問、自分なりの考察をミニレポートにまとめ、当日中に提出する。(積極性や態度も含む)

教科書等

● 教科書等

大浦賢治『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ書房 ¥2,420(税込)

● 参考書

予習・復習

教科書の授業に関する箇所を、授業前に必ず目を通しておくこと。授業後は、ノートやプリントと、教科書の内容を照らし合わせて理解を深めるように努める。

オフィスアワー

実務経験

特別支援教育

宮本 直美

MB1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代の特別支援教育に至る今日までの歴史の変遷、基本理念、制度、教育内容や保育内容について理解する。現代社会における特別なニーズを持つ子どもたちの実態について理解した上で、保育者として特別支援教育に関するシステム、指導法の基本的な理解をする。

● 到達目標

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性や心身の発達、及び学習上又は生活上の困難さについて理解する。特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の教育課程や支援の方法、及び組織的な対応の必要性について理解する。

履修のルール

最初の授業時に指示する。

授業計画

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え
2. 特別なニーズを持つ子の理解①身体障がい・病弱・医ケア・重身等
3. 特別なニーズを持つ子どもの理解②知的障がい・発達障がい等
4. 特別な配慮を要する子どもの理解と支援
5. 個別の教育支援計画と個別の指導計画
6. 特別支援学校と支援学級、通級による指導における教育と自立活動
7. 幼稚園等・小学校・中学校における特別支援教育と仕組み～園内の支援体制について～
8. 障がい児支援の制度理解と地域における自治体や専門機関との連携
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	40	筆記試験
レポート	0	
その他	60	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価。

教科書等

● 教科書等

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援 教育・保育概論』
萌文書林 ¥2,200 (税込)

● 参考書

監修 清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ (岩澤寿美子・西村和久) 『「背景」から考える 気になる子の保育サポートブック』新星出版社 ¥1,870 (税込)

予習・復習

次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休みと放課後

実務経験

小学校において、特別支援コーディネーターとして、特別な教育的ニーズを持つ児童に対する指導や支援を行った (宮本直美)。

教育課程論

坂本 渉

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・冬×2		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

幼稚園・保育所等における「教育課程」「全体的な計画」の編成の基本的な考え方を理解し、その必要性和重要性を認識する。また、「教育課程」「全体的な計画」の編成および指導計画作成上の留意点や基本的知識を身につけるとともにカリキュラム・マネジメントと評価ならびに改善について理解することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 「教育課程」「全体的な計画」の意義を理解し、説明できる。
- 2) 「教育課程」「全体的な計画」の編成方法や手順について説明できる。
- 3) カリキュラム・マネジメントの意義について説明できる。
- 4) 保育・教育の計画、実践、省察、評価の過程について理解、実践していく力を身につける。

履修のルール

授業計画

1. 保育における計画の意義と必要性
2. 長期指導計画と短期指導計画の考え方
3. 「教育課程」「全体的な計画」編成のための基本的事項と留意点
4. 幼稚園教育要領と「教育課程」「全体的な計画」の編成方法
5. 保育所保育指針と「全体的な計画」の編成方法
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と「全体的な計画」の編成方法
7. 保育における食育計画と保健計画
8. 保育における行事の意味と指導計画への位置づけ
9. 小学校との連携
10. 「全体的な計画」から「指導計画」へ
11. 指導計画作成のための基本的事項と留意点
12. 0歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
13. 1～2歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
14. 3～5歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
15. カリキュラム・マネジメントと保育の評価

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

- ・田中亨胤・三宅茂夫 編 『シリーズ知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論』(株)みらい ¥2,420 (税込)
- ・内角府・文部科学省・厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550 (税込)

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

予習・復習

予習: 授業中に指示した内容について、教科書等を熟読しておくこと。

復習: 授業内容を復習し、まとめ整理しておく。その際には、授業で学んだことを自分で説明できることを意識して行うこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

教育実習

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MB2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
○ 2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	実・4	回数	
年次 学期	1年夏・2年夏		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。
- 教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方を理解する
- 子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ
- 保育計画（保育指導案）の立案および実施できる
- 幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 1回生時「観察実習（1週間）」、2回生時「本実習（3週間）」を行う。
- 事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

〈実習に関わる内容〉・訪問指導・実習記録、指導案に関わる指導・子ども理解と関わり方への指導・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価（75%） ・実習日誌（25%）

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540（税込）
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

予習・復習

毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

教育実習指導

板倉 史郎・本田 和隆

MB1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年通・ 2年春夏		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画（保育指導案）が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと（板倉研究室）
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全15回を2年間にわたって履修

授業計画

1. オリエンテーション（教育実習とは）
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題（カード作成）
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
12. 教育実習の目標と課題（カード作成）
13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）（30%） ・授業における参加状況（15%） ・実習課題提出、到達状況（35%） ・実習後の振り返り、まとめ、報告（20%）

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540（税込）
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

授業内で紹介する

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育原理

馬場 住子

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

保育に関する法令および制度を知ることから、保育の基本について理解する。また、保育の思想と歴史の変遷および現代保育の現状と課題についても理解する。

テキストを基に、保育の意義および目的、保育に関する法令および制度、保育の基本について解説する。また、障がい児の保育を理解するため各自で教材研究等の課題に取り組み、それぞれの学びを共有する。子ども・子育て新制度については各自で調べたことを基に、グループディスカッションの時間を設ける。特殊な保育方法については視聴覚資料などを用いて理解を深める。さらに、保育の現状と課題については、現場の具体的事例を提示し、考察に取り組めるようにする。

● 到達目標

1. 保育の原点である保育思想史を理解するために自ら努力することができる。
2. 保育の基本的理念を理解し、専門的知識を保育現場で活用することができる力を身に付ける。
3. 保育制度および保育の現状を理解し、課題解決のために自ら考察することができる。

履修のルール

授業計画

1. 保育の理念と概念 — 保育の基本について —
2. 保育に関する法令および制度 — 保育所・幼稚園・認定こども園に関する法令と制度 —
3. 保育の目標 — 各園の目標比較から —
4. 保育の方法 — 就学前保育の特質を基に —
5. 保育の基盤としての養護 — 生命の保持と情緒の安定 —
6. 乳児の保育 — 低年齢児の保育の基本 —
7. 障がい児の保育 — 障害のある子どもへの教材研究 —
8. 子育て支援・保護者支援 — その現状と課題から —
9. 保育の環境 — 環境を通じた保育事例から —
10. 保育の思想と歴史の変遷 (1) — 西洋の保育史 —
11. 保育の思想と歴史の変遷 (2) — 日本の保育史 —
12. 保育の思想と歴史の変遷 (3) — 保育内容史 —
13. 特殊な保育思想と保育方法 — フレーベル幼稚園・モンテッソーリ幼稚園を例に —
14. 保育の現状と課題 — 現場の保育事例から —
15. 総括 — 保育の現状と課題への考察など —

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	40	授業への参加状況、レポート等の提出物、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

瀧川光治 小栗正裕 宮地あゆみ編著『保育の学びファーストステップ』青踏社 ¥2,420 (税込)

● 参考書

- ・厚生労働省編著『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)
- ・文部科学省著『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと

復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

実務経験

子ども家庭福祉

本田 和隆

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

子どもたちが抱える多様な問題は、子どもと家庭を取り巻く社会的背景の急激な変化や、現代家族の変容と深く関わっている。子どもと家族に対する支援の必要性を念頭に、様々な法律や福祉制度の基本を幅広く学ぶ。あわせて、社会の発展に伴い変化してきた「子どものとらえ方」について学ぶ。

また、子どもや親への支援のしくみ・方法、地域を視野に入れた支援の基礎について学び、その課題や展望を学ぶ。子どもの福祉を専門的な視点から考えられるように、視覚教材や事例を紹介し具体的に理解できるようにする。

● 到達目標

- ・ 子ども家庭福祉を学ぶために必要な基礎知識を理解する
- ・ 法制度をはじめとした子ども・家庭を支えるさまざまな制度の枠組みを理解する
- ・ 現代の子育てに関わる問題の概要を理解する

履修のルール

- ・ 春期「社会福祉」の学習内容と深く関係があるため関連して理解できるようにしておくこと。

授業計画

1. 超少子高齢社会における子ども家庭福祉①
2. 超少子高齢社会における子ども家庭福祉②
3. 子ども家庭福祉の理念と専門職①
4. 子ども家庭福祉の理念と専門職②
5. 子ども家庭福祉の展開
6. 子どもの権利擁護
7. 子ども家庭福祉の法体系①
8. 子ども家庭福祉の法体系②
9. 子ども家庭福祉の制度・事業
10. 子ども家庭福祉の実施行政機関
11. 子ども家庭福祉に関連する施設①
12. 子ども家庭福祉に関連する施設②
13. 地域の子育て家庭への支援の現状と課題
14. 要保護・要支援児童への支援
15. 子ども家庭福祉の動向とソーシャルワーク

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	55	筆記試験
レポート	0	
その他	45	授業への参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

講義時にプリント教材を配布
芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和編『子ども家庭福祉入門』ミネルヴァ書房 ¥2,640 (税込)

● 参考書

『保育福祉小六法』みらい

予習・復習

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

社会福祉

青木 淳英

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		◎ 4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

この授業は、個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解すること、また、社会保障の意義、社会保障と私たちの生活との関連など、自分たちの暮らしを通して活用できる知識を身につけることを目的とする。個人が自立した生活を営むことを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養う。また、日本の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて学び、自助から公助に至る過程を理解する。

● 到達目標

1. 福祉を必要とする人々を取り巻く様々な状況（生活問題など）を理解している。
2. 社会福祉の全体像を踏まえ、その知識を生かしながら保育士として実践する力量を身につけている。

履修のルール

- ・ノートPCを持参すること（タブレット可。ただし必ずキーボードをつけていること）。
- ・課題（事前・授業中・事後）等は、基本的にノートPCで取り組むことになる。
- ・授業時に予習・復習の内容を指示する。

授業計画

1. ガイダンス／科目のねらいと概要
2. 保育と社会福祉
3. 社会福祉の道すじ①
4. 社会福祉の道すじ②
5. 社会福祉の意味と考え方①
6. 社会福祉の意味と考え方②
7. 社会福祉の実施体制と財源
8. 暮らしを支える社会保障制度
9. 子どもと家族の福祉
10. 障害のある人の福祉
11. 高齢者の福祉
12. 地域福祉
13. 社会福祉の専門職と倫理
14. 保育士とソーシャルワーク
15. 利用者の権利擁護とサービスの質

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験
レポート	0	
その他	40	受講態度、演習への参加姿勢、授業中課題、小レポート、確認テスト

教科書等

● 教科書等

- ・芝野松次郎・新川泰弘・山縣文治『社会福祉入門』ミネルヴァ書房 ￥2,640（税込）
- ・保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法』みらい ￥1,870（税込）
- ・プリント教材

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

予習・復習

- ・事前課題が出された場合は、必ず取り組んだうえで授業に臨むこと。
- ・授業後の事後課題（小レポート）が出された場合は、必ず取り組み提出すること。

オフィスアワー

- ・火・木・金の昼休みに研究室で受け付ける。
- ・質問・意見はコメントペーパーでも受け付ける。

実務経験

子ども家庭支援論

宮本 直美

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術	○	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

現代の子育て家庭の抱える課題や現状について理解するとともに、子育て家庭への支援として保育者として求められているものは何かについて検討する。また、支援体制について理解するとともにニーズに応じた多様な支援の展開について学ぶこととする。

● 到達目標

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する

履修のルール

最初の授業時に指示する

授業計画

1. 子ども家庭支援の意義と必要性
2. 子どもの家庭支援の目的と機能
3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4. 子どもの育ちの喜びの共有
5. 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の支持
6. 保育士に求められる基本的態度
7. 家庭の状況に応じた支援
8. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
9. 子育て支援施策と次世代育成支援施策の推進
10. ワークライフバランスと男女共同参画
11. 子ども家庭支援の内容と対象
12. 保育所を利用する子ども家庭への支援
13. 地域の子育て家庭への支援
14. 要保護児童等及びその家庭に対する支援
15. 子ども家庭支援に関する現状と課題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	40	子ども家庭支援に関わる基礎的な事項に対する筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	60	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価。

教科書等

● 教科書等

「最新 保育士養成講座」総括編纂委員会／編
『子ども家庭支援 家庭支援と子育て支援』
全国社会福祉協議会 ￥2,090 (税込)

● 参考書

草野いづみ編「みんなで考える 家族・家庭支援論」
同文書院 ￥2,310 (税込)

予習・復習

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

子ども・子育て総合センターにおいて、地域における子育て家庭の福祉を図るための取り組みを行う（ゲストティーチャー：新谷紀子）。

社会的養護 I

本田 和隆

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術	○	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・冬×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

【授業目的】

本講では、社会的養護の意義と基本的原理の理解を深めることを目的とする。

【授業概要】

現代の子育てをめぐる諸問題が複雑化、多様化するなか、子どもとその家族が抱える悩みも深刻化している。都市化、核家族化が進む昨今では、家庭や地域の中だけでは問題解決が出来ない困難事例も増加しており、社会的な養護の必要性を高めている。問題を抱える児童の養護に関する現状理解や子どもの権利保障という視点から、社会的な養護を要する子どもと家族、それを取り巻く地域社会を支援するための基本的理念を学び、行政施策などの具体的な仕組みについて理解を深める。特に、多くの保育士が勤める乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設の機能と、そこで働く保育士の役割について考察を深める。

● 到達目標

【到達目標】

社会的養護を要する子どもの現状に関心を持ち、子どもの権利擁護のための行政施策とその他の支援体制および保育士の具体的な役割に対する知見と考察を深めることができる。

履修のルール

授業計画

1. 社会的養護の意義と目的
2. 社会的養護の成り立ち I (昭和戦前期と戦後混乱期)
3. 社会的養護の成り立ち II (児童福祉法の成立)
4. 社会的養護の成り立ち III (最近の動向)
5. 子どもと家族を取り巻く問題
6. 社会的養護の制度と実施体系
7. 補完・支援的養護の実例 — 保育所・児童家庭支援センター等
8. 治療的養護の実例 — 情緒障害児短期治療施設/児童自立支援施設
9. 施設養護の実例 — 乳児院・児童養護施設
10. 家庭的養護の実例 — グループホーム・自立援助ホーム
11. 家庭養護の実例 — 里親・ファミリーホーム
12. 社会的養護の関係機関と連携体制
13. 子どもの権利擁護と保育士の役割①
14. 子どもの権利擁護と保育士の役割②
15. 全体のまとめ — 社会的養護とは何か

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	55	筆記試験
レポート	0	
その他	45	授業の参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和編 (2021) 『社会的養護入門』 ミネルヴァ書房

● 参考書

予習・復習

教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わるニュースに関心をもっておくことが大切である。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

子どもの保健

釜島 美智代

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[保必]

授業内容

● 目的と概要

子どもの身体発育・生理機能の発達の様子と子どもによくみられる症状や子どもに多い病気について学習し、病気の早期発見、体調の変化への対応ができる知識を得ることを目的とする。

● 到達目標

- ①子どもの身体発育・生理機能の発達の道筋を述べることができる。
- ②子どもによくみられる症状とその対応について説明することができる。
- ③子どもに多い病気についてその特徴を理解する。

履修のルール

授業計画

1. 子どもの心と身体の健康と保健の意義
2. 母子保健サービス
3. 体のつくりと身体発育
4. 身体発育の評価
5. 生理機能の発達 (体温調節)
6. 生理機能の発達 (呼吸・血液循環)
7. 生理機能の発達 (消化吸収)
8. 生理機能の発達 (排泄・睡眠)
9. 生理機能の発達 (感覚器)
10. 子どものかかりやすい感染症①
11. 子どものかかりやすい感染症②
12. 感染症の予防と対応① (感染症対策)
13. 感染症の予防と対応② (予防接種)
14. 子どもに多い病気 (アレルギーの病気)
15. 子どもに多い病気 (その他の病気)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	40	授業内の課題 30%、課題レポート 10% 期末試験 60%

教科書等

● 教科書等

鈴木美枝子編著『これだけはおさえて！保育者のための子どもの保健』創成社 ¥2,420 (税込)

● 参考書

日本外来小児科学会編著『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド第4版』医歯薬出版株式会社 ¥2,200 (税込)

予習・復習

予習：次回のテーマに対するテキストの箇所を提示するのでよく読んで授業に臨むこと
復習：授業内に配布した資料や行ったワークの内容を整理する。

オフィスアワー

授業日の昼休み 非常勤講師室または教室にて

実務経験

小児病棟勤務、病児保育室勤務、小児救急電話相談相談員

乳児保育 I

馬場 住子

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋×2		[保必]

授業内容

● 目的と概要

現代の乳児保育の環境について知り、教育・保育施設にて保育者が日々実践している乳児保育の意義や目的等について学修する。

誕生から著しい発達を遂げる乳児の発達の過程や日々の生活、遊びの現状を知る。また、保育者として必要な知識や保育方法の基本について事例を通して検討することを通して、子どもにとっての最善の利益についての理解を深める。

● 到達目標

1. 乳児保育の意義や目的、歴史的変遷について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3歳未満児の心身の発達を踏まえた保育内容について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携、保護者および地域の関係機関との連携について理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーションー乳児保育とはー
 2. 乳児保育の目的と役割
 3. 乳児保育の基本ー乳児保育の歴史的変遷ー
 4. 0・1・2歳児の子ども発達
 5. 乳児(0歳児)の保育内容
 6. 1歳以上3歳未満児の保育内容
 7. 乳児保育における保育者の専門性
 8. 乳児の生活と遊びの基本的事項ー乳児の食事、健康や安全、防災対策ー
 9. 乳児の遊びー各月齢に適した遊びと玩具ー
 10. 乳児の保育環境ー各年齢にふさわしい環境構成ー
 11. 乳児保育の全体的な計画ー全体的な計画および指導案ー
 12. 乳児保育における子育て支援ー保護者支援の実際ー
 13. 乳児保育における連携ー職員・家庭・地域との連携ー
 14. 乳児保育における保育者の専門性
 15. 総括ー乳児保育をめぐる社会的状況と課題ー
- 理解を深めるため演習を行うことがあります。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	40	授業への参加状況、レポート等の提出物、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

小山朝子編著『講義で学ぶ乳児保育』わかば社
¥1,760(税込)

● 参考書

- ・厚生労働省編著『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと

復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

実務経験

保育実習 I (保育所)

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MW2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	実・2	回数	8
年次 学期	1年・冬集		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。

保育実習 I (保育所) では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者への発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・保育計画の立案を学ぶ
- ・保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・保育に対する考え方を深める

履修のルール

保育実習指導 I (保育所) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

(実習に関わる内容)

- ・訪問指導
- ・実習記録、指導案に関わる指導
- ・子ども理解と関わり方への指導
- ・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設による評価 (60%) ・実習日誌 (20%) ・実習報告 (実習報告書、報告会での内容) (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥600

● 参考書

予習・復習

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

オフィスアワー

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習指導 I (保育所)

板倉 史郎・本田 和隆

MW1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・通		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (保育所) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・保育所の制度的理解を深める
- ・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全 15 回を 2 年間にわたって履修

授業計画

1. オリエンテーション(保育実習とは)
2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
3. 実習目的に基づく自己課題の明確化
4. ソーシャルスキルに関わる演習
5. 実習記録の書き方①目的とねらい
6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き
7. 保育計画指導案の立て方①ねらいをもった指導案
8. 保育計画指導案の立て方②つけさせたい力
9. 実習先の制度的理解
10. 保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①一手遊び
12. 実習に関わる演習②絵本の読み聞かせ
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業での課題提出(20%) ・課題の到達状況(ボランティア参加を含む)(35%) ・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥600

● 参考書

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習指導 I (福祉施設)

板倉 史郎・本田 和隆

MW1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1 年秋冬・ 2 年春		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (福祉施設) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・福祉施設の制度的理解を深める
- ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設実習とは)
2. 福祉施設実習の必要性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化
5. ソーシャルスキルに関わる演習
6. 福祉施設実習記録の書き方①
7. 福祉施設実習記録の書き方②
8. 保育計画指導案の立て方①
9. 実習先の制度的理解
10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①
12. 実習に関わる演習②
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%) ・授業における参加状況 (15%) ・実習課題提出、到達状況 (35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥600

● 参考書

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

こども音楽療育概論

小原 敦子

MA1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[保選]

授業内容

● 目的と概要

音楽療育の意義を理解する。

- ・各障害についての理解を深め、保育の場で障害児に対応できる力を身につける。
- ・一人一人の子どもの状態を把握し、適切な対応ができる力を身につける。
- ・保育における音楽と遊びの関係を学ぶ。

● 到達目標

一人一人の子どもに合わせて関わっていくことの大切さを理解する。

保育現場で適切な対応をしていくための具体的な手段を知る。

音楽を保育に活かす技術を身につける。

履修のルール

- ・受講生は、運動のできる服装で参加すること。

授業計画

1. 授業についての説明
2. 音楽療育とは
3. 音楽の心身に及ぼす影響：乳幼児編
4. 音楽の心身に及ぼす影響：児童編
5. 乳幼児の音楽を通じた発達
6. 児童の音楽を通じた発達
7. 成長と遊び①（身近な感覚に働きかける遊び）
8. 成長と遊び②（イメージ遊び）
9. ダウン症児の保育の実際
10. 自閉症児の保育の実際
11. 肢体不自由児の保育の実際
12. 軽度発達障害児の保育の実際
13. 通常保育における音楽を通じた保育
14. 障害児保育における音楽を通じた保育
15. まとめ—こども音楽療法士にとって大切なこととは

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	試験を行う
レポート	0	
その他	40	毎授業時の小レポート 30点 実技に取り組む態度（積極性 協調性など）10点

教科書等

● 教科書等

授業時にプリント教材を配布する。

● 参考書

予習・復習

ボランティア等に積極的に参加し、子どもと実際にふれあう機会を多く持つことが望ましい。

オフィスアワー

水曜日 14:50～15:00 16:30～16:40 リズム室にて

実務経験

ゼミナール I

各ゼミ担当

MS1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
○	2.知識・技術	○	4.人権・共感
単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]

授業内容

● 目的と概要

大学での学び方（ノートを取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。その後、各ゼミに分かれて、その専門分野に応じた学びを展開していく。大学でのゼミナールでの研究方法についても学んでいく。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。

履修のルール

授業計画

1. 各ゼミ計画表による
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		各ゼミ計画表による
レポート		
その他	100	各ゼミ計画表による

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

実務経験



講義要綱

幼児教育科 2 回生
2020 年度入学生

日本国憲法

青木 淳英

LS1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・春×2		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

日本国憲法の歴史・しくみや内容（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義など）を理解し、「主権者として、自分には何ができるのか」を考え、議論できる力を養う。

日本国憲法が示している日本社会の理想像を学ぶことにより、私たちが最も大切にしなければならない人権意識を養うとともに、社会のあり方をともに考えていく。

● 到達目標

1. 現代の平和な日本社会を作るために努力してきた先人たちの取り組みを知っている。
2. 基本的人権の重要性を理解し、主権者として必要な「社会をみる眼」や人権感覚を身につけている。
3. 主権者として、平和な社会を引き継ぐために自分にできることは何か、自分の考えを持てるようになるとともに、他者の意見に耳を傾けられる。

履修のルール

- ・ノートPCを持参すること（タブレット可。ただし必ずキーボードをつけていること）。
- ・課題（事前・授業中・事後）等は、基本的にノートPCで取り組むことになる。
- ・授業時に予習・復習の内容を指示する。

授業計画

1. ガイダンス／科目のねらいと概要
2. 憲法の三大原理と国民主権
3. 平和主義
4. 戦争の放棄
5. 基本的人権① 幸福追求と自己決定
6. 基本的人権② 法の下での平等
7. 基本的人権③ 親権と子どもの人権
8. 基本的人権④ 思想・良心・信教の自由
9. 基本的人権⑤ 表現の自由
10. 基本的人権⑥ 人身の自由
11. 基本的人権⑦ 生存権
12. 基本的人権⑧ 女性の貧困
13. 統治機構① 権力分立の原則、国会、選挙制度
14. 統治機構② 内閣
15. 統治機構③ 裁判所

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験
レポート	0	
その他	40	受講態度、演習への参加姿勢、授業中課題、小レポート、確認テスト

教科書等

● 教科書等

- ・適宜プリント教材を配付する。
- ・保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法』みらい ￥1,870(税込)

● 参考書

- ・授業中に適宜紹介する。

予習・復習

- ・事前課題が出された場合は、必ず取り組んだうえで授業に臨むこと。
- ・授業後の事後課題（小レポート）が出された場合は、必ず取り組み提出すること。

オフィスアワー

- ・火・木・金の昼休みに研究室で受け付ける。
- ・質問・意見はコメントペーパーでも受け付ける。

実務経験

英語 C

鯨坂 はるよ

LF2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		

授業内容

● 目的と概要

[授業の目的]

四大編入を予定している学生の英語力養成を主な目的とする。過去の四大編入試験を解く中で、語彙力、文法知識を向上させ、長文読解力を身に付ける。

[授業の概要]

辞書を用いて、編入希望学部に合わせて英語試験問題を解いていく。

● 到達目標

- ・ 英文法の知識が増えた。
- ・ 英文の長文読解の仕方を理解できた。
- ・ 語彙力が身についた。
- ・ 希望学部の英語試験問題傾向がわかった。

履修のルール

授業計画

1. 四大編入希望学部について、英語編入試験問題、四大編入までに身に付けておく英語の力
2. 社会福祉学部系の過去編入問題 文法・単語問題
3. 社会福祉学部系の過去編入問題 長文問題
4. 社会福祉学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
5. 教育学部系の過去編入問題 文法・単語問題
6. 教育学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
7. 教育学部系の過去編入問題 長文問題
8. その他の学部の編入問題の傾向、振り返り小テスト、解説、まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	編入試験過去問題を終えるごとに行う。振り返り小テストを評価基準とする。

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

予習・復習

授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

実務経験

コンピュータ・リテラシ C

森 大樹

LI2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏		[幼選]

講義要綱
2年次

授業内容

● 目的と概要

[目的] インターネットやメール、文書作成、表計算などコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。

本科目では具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。

[概要] 1年次に引き続き、ワードやエクセルのやや進んだレベルでの使い方や動画・音楽編集を学習する。

● 到達目標

「Windows」や代表的なソフトウェアであるワード、エクセル、パワーポイントの操作方法を学び、様々なタイプの文書や表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫し応用の利いた文書や表の作成、動画・音楽編集の基本ができるようになることを目標としている。

履修のルール

1 回生時に購入の自分専用のノート PC を各自持参すること。

授業計画

1. 音楽編集 (1) データの取り込みとトリミング
2. 音楽編集 (2) マルチトラック編集とエフェクト
3. パワーポイント演習 (1) 課題説明と制作
4. パワーポイント演習 (2) 発表
5. ポスター制作 (1) 課題説明
6. ポスター制作 (2) 課題完成と評価
7. 動画編集 (1) 課題説明とタイムライン
8. 動画編集 (2) タイムラインとエフェクト
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への取り組み姿勢 (40%)、課題等 (60%)。

教科書等

● 教科書等

『30時間でマスター Office2016 (Windows10 対応)』 実教出版
編修部編集 実教出版 (2016/6/10) 本体 ¥1,100 (税込)

● 参考書

講義時に適宜紹介

予習・復習

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・研究室 (704)

実務経験

体育理論

吉井 英博

LP1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

体育・スポーツについて講義および体験的活動(実技)を通して、教育者・保育者として健康と安全に関する知識を身につけることを目的とする。各回のテーマに基づき、講義を行い、自らの健康の保持増進が図れるように理解を深める。

● 到達目標

健康や体力向上、安全に関する事例および理論をもとに基本的な知識や考え方を理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション、スポーツと栄養
2. 健康とダイエット
3. 体脂肪と筋肉
4. 健康と食習慣
5. 筋力トレーニング概論
6. 筋肉の回復
7. 体力と運動能力
8. たばこの基礎知識、梅毒と HIV
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	到達目標に対応して筆記試験を行う。体育理論について用語の説明や自身の考えを問います。
レポート	20	授業時に提示した課題について選択し、レポートを作成する。
その他	30	授業への取り組み(振り返りシート)等を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

高木信良『幼児期の運動あそびと健康』不昧堂 ¥2,200(税込)

● 参考書

予習・復習

授業時に配布するプリント等の資料を整理しておくこと。

オフィスアワー

木曜日以外随時

実務経験

体育実技

吉井 英博

LP1P

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	実・1	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

体育・スポーツについて講義および体験的活動(実技)を通して、教育者・保育者として健康と安全に関する知識と技能を身につけることを目的とする。各回のテーマに基づき、講義および実技を行い、自らの健康の保持増進が図れるように理解を深めながら、心身のリフレッシュを図る。

● 到達目標

- 1) 各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解する。
- 2) 各運動を安全かつ楽しみながら実施する。
- 3) 運動やゲームを多く経験し、保育現場で実践できるように理解し、簡易的な運動やゲームを考案する。

履修のルール

- ・授業に際し、体調管理に努めること。
- ・授業時は、水分・汗ふきタオル・着替え・屋内屋外両方のシューズを常に用意しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション、ストレッチの理論と実践
2. 器械運動①(マット運動:理論と実践)
3. 器械運動②(マット運動:理論と到達度テスト)
4. 器械運動③(鉄棒運動:理論と実践)
5. 器械運動④(鉄棒運動:理論と到達度テスト)
6. 縄跳び運動①(短なわ、大なわ:理論と実践)
7. 縄跳び運動②(短なわ到達度テスト)
8. ボール運動①(ネット型:バドミントン理論と実践)
9. ボール運動②(ネット型:バドミントン到達度テスト)
10. 生涯スポーツ①(グランドゴルフの理論と実践)
11. 生涯スポーツ②(グランドゴルフの理論と実践)
12. 表現運動①(創作ダンス:理論と実践)
13. 表現運動②(創作ダンス:発表会)
14. 体力テスト①(測定)
15. 体力テスト②(測定およびまとめ)

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	30	授業時に提示した課題について1つを選択してレポート課題とする。
その他	70	①到達目標1)に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組む姿勢を評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

- ・授業時に配布する資料を整理しておくこと。
- ・授業内容に応じて、自宅等で練習するなど動きの確認をしておくこと。

オフィスアワー

木曜日以外随時

実務経験

キャリアデザインⅡ

阪田 啓代

LC2L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・通*		

授業内容

● 目的と概要

「就職活動」とは単に働く会社(園、施設)を選ぶことではない。「正解」というものがない進路選択を、自らの生き方に照らし決断し決定するまでの探究的な活動である。
本講義では、就職活動の具体的な準備と実践だけでなく、様々な分野で活躍しているゲスト講師の話等を通して、生涯を通じてのキャリア形成という視点で進路を決定する力を身につける。

● 到達目標

- ・これまでの学びや経験が自分のキャリアにどのような意味をもつのか考える。
- ・卒業後の進路を考え、それを実現するための具体的な活動計画をたて、実践する。
- ・卒業後の進路を選択し、決定し、今後その進路を充実させるという意識をもつ。

履修のルール

- ・15回の授業以外に履歴書作成、採用試験対策などの実践的な指導を行う時間を設ける。その時間にも積極的に参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション / 就職活動とは何か
2. 求人動向と就職活動への取り組み方 - 就職フェア・説明会 -
3. 実務実践①求人先理解とアプローチの仕方
4. 受験先の選択 - 卒業生の進路選択から学ぶ -
5. 実務実践②応募書類の作成・志望動機の考え方と伝え方
6. 実務実践③採用試験から分析する採用側の求める人材
7. 労働契約 - 内定と内定取消 -
8. 卒業後のキャリア形成①仕事を継続する力
9. 卒業後のキャリア形成②結婚・出産という転機
10. 卒業後のキャリア形成③退職、同業他社への転職という転機
11. 卒業後のキャリア形成④退職、異業種への転職という転機
12. 研修の意味と心構え
13. 内定辞退・早期退職防止 - 園長・施設長からの聞き取り調査より -
14. 雇用に関する権利と義務 - 労基法 -
15. 進路選択と私のキャリアデザイン・卒業後のいろいろな支援

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講マナー、授業への参加・取り組み姿勢、課題レポートの提出などで総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

● 参考書

予習・復習

- ・授業で学んだことを日常生活で活用し、実践すること。
- ・授業で学んだことを就職活動で実践すること(就職フェアや就職説明会への参加など)
- ・実践した活動について、自身の考えを整理し、報告、相談すること。

オフィスアワー

実務経験

保育内容の指導法(健康 I)

吉井 英博

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

現代社会の状況をふまえた幼児の心身の発達の知識 (ICT の活用含む)、その指導のための実践方法を学ぶ

● 到達目標

幼稚園教育要領等の領域「健康」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション、三法令から考える領域「健康」のねらい
2. 保幼小の連携・接続、領域「健康」の指導計画と評価
3. 保育内容「健康」の指導法① (運動あそび)
4. 保育内容「健康」の指導法② (生活習慣)
5. 現場における事故防止と安全管理の実際と理論
6. 保育計画のための ICT を用いた教材研究①
7. 保育計画のための ICT を用いた教材研究②
8. ICT を用いた教材研究プレゼンテーション、まとめ (最新動向)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート		
その他	50	学習のまとめの発表内容及び成果 (50%)

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

- ・シラバスを参照し、事前にテキストを読んでおくこと。
- ・授業時に配布した資料を必ず整理し、まとめておくこと。

オフィスアワー

木曜日以外随時

実務経験

保育内容の指導法(健康Ⅱ)

吉井 英博

MT2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼選] [保選]

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「健康」に示された観点から、ねらい及び内容を理解する。
- ・ 安全に特化した、理論と実践を習得する。

● 到達目標

- ・ 保育内容「健康」の目標を正しく理解し、保育現場で役立つ知識とスキルを習得することができる。
- ・ 習得した知識とスキルを活用し、課題解決することができる。

履修のルール

- ・ 保育内容の指導法「健康Ⅰ」を履修済であること。
- ・ 実技を伴うので、軽装で参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション、口腔内の衛生①
2. 口腔内の衛生②(理論と実践)
3. 口腔内の衛生③(演習)
4. 応急手当①(理論と実践)
5. 応急手当②(到達度テスト)
6. 一次救命処置①(理論と実践)
7. 一次救命処置②(演習、到達度テスト)
8. 手指の衛生、アレルギー対応、まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート	50	授業で取り上げた内容について、その都度課題を提示する。
その他	50	・ 実技試験を行う。 ・ 授業への参加状況及び活動への取り組み状況などを総合して評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

予習及び復習の内容については、授業中適宜指示するので、確実に履行しておくこと。

オフィスアワー

木曜日以外随時

実務経験

保育内容の指導法(人間関係)

茂野 仁美

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

子どもたちが他者と共に共通の目的に向かって、一緒に考え、工夫し、協力する育ちの体験を支える、領域「人間関係」の内容について学ぶ。発達や社会的背景を含め、子どもが人と関わる姿を読み取り理解し、より良い方向へ向かっていける援助を組み立てられる力をつけることを目指す。

● 到達目標

領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
人間関係を通して培われる「非認知的能力」について理解する。
個々の子どもの人間関係における課題について、読み取る力を身につける。

履修のルール

授業計画

1. 非認知的能力と認知能力
2. 保育の基本と領域「人間関係」①
3. 保育の基本と領域「人間関係」②
4. 事例をとおして人間関係の育ちを読み解く①
5. 事例をとおして人間関係の育ちを読み解く②
6. ICTと人間関係
7. 「人間関係」の育ちの理解と評価
8. まとめ 非認知的能力を育む「人間関係」とは
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 50%
レポート	0	
その他	50	授業内課題レポートと演習発表（グループワークでの態度や積極性も含む）50%

教科書等

● 教科書等

無藤隆・古賀松香『実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』北大路書房 ¥2,530(税込)
『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

● 参考書

田代和美・榎本眞実『演習 保育内容 人間関係—基本的事項の理解と指導法—』建帛社 ¥1,760(税込)

予習・復習

授業内でのレポートや演習発表があるので、教科書をよく読むだけでなく、図書館を使用して関連の書籍を積極的に調べることを。

オフィスアワー

実務経験

保育内容の指導法(環境)

坂本 渉

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

子どもをとりまく様々な環境において、それらを生活やあそびに取り入れていく力を育むための知識を深め、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることを目的とする。

● 到達目標

- 1) 領域「環境」の特性および子どもの体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 2) グループワーク、制作等を通して環境構成および再構成する力を身につける。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション / 子どもの感性を育む
2. 環境構成と保育者の役割
3. 人とのかかわりー集団でのあそびー
4. 自然事象とのかかわり①生命の営みにふれる
5. 自然事象とのかかわり②風や空気を感じる
6. 自然事象とのかかわり③土や水にふれる
7. ものや道具とのかかわり①身近な素材を使ったあそび
8. ものや道具とのかかわり②科学あそび
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート		
その他	30	授業内課題〔作品含む〕、課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

田宮 縁 『体験する 調べる 考える 領域「環境」』萌文書林 ¥2,200(税込)

● 参考書

予習・復習

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。

復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。これらの実務経験に基づいて指導する。

保育内容の指導法(言葉Ⅰ)

坂本 渉

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 言葉の意義や機能について理解する。
- 2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践方法を身につける。
- 3) 乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション / 言葉の意義と機能
2. 言葉による伝え合いと文字の機能
3. 言葉の感覚を磨く遊び (0・1・2 歳児)
4. 言葉の感覚を磨く遊び (3・4・5 歳児)
5. 児童文化財の研究①絵本・紙芝居
6. 児童文化財の研究②手遊び・うた遊び
7. 児童文化財の研究③シアター系文化財
8. 模擬保育：児童文化財を活用した保育実践
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題 課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

予習・復習

予習：次回までに取り組むべき内容や課題について授業内で指示する。

復習：授業内容についての振り返りを行うこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。これらの実務経験に基づいて指導する。

保育内容の指導法(言葉Ⅱ)

坂本 渉

MT2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
◎ 2.知識・技術	4.人権・共感		
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼選] [保選]

授業内容

● 目的と概要

領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。言葉Ⅱでは、言葉Ⅰでの学びを踏まえ、言葉の発達を理解したうえで、具体的な保育場面を想定しながら、言葉の指導法について実践的に学ぶ。

● 到達目標

- 1) 言葉の意義や機能について理解する。
- 2) 言葉に対する感覚を豊かにする方法を身につける。
- 3) 乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。
- 4) 児童文化財をもとに教材づくりや実演をすることで、保育実践力を身につける。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション / 保育内容の指導法(言葉Ⅰ)を振り返る
2. 児童文化財の研究①ペープサート
3. 児童文化財の研究②ことば遊び
4. 児童文化財の研究③ストーリーテリング
5. 児童文化財の研究④文字を遊びに取り入れる
6. 児童文化財を用いた保育実践：立案
7. 児童文化財を用いた保育実践：①模擬保育 / 振り返り
8. 児童文化財を用いた保育実践：②模擬保育 / 振り返り
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業内課題〔作品含む〕(50%) 課題発表、授業への参加状況(50%)

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

予習・復習

予習：次回までに取り組むべき内容や課題について授業内で指示する。
復習：授業内容についての振り返りを行うこと。

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任、また保育所保育士として勤務。これらの実務経験に基づいて指導する。

保育内容の指導法(造形表現Ⅰ)

大松 伸洋

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
◎ 2.知識・技術	4.人権・共感		
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・ 春/夏		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

造形表現活動Ⅰでは主に平面(描く)を主体に置いた活動を行う。指導案を作成し模擬保育を行い、先生役・園児役を交互に行い、そこから感じ取れる幼児の造形表現活動の意義や、保育者として子どもの主体性を大切にしたい豊かな表現を支えるための知識や技能を身につける。

子ども達の表現における発達段階を学び、制作によって子ども達の自由な感性を豊にさせるための援助や配慮が、どうあるべきかを模擬保育を通じて検討する。

● 到達目標

造形表現活動の意義について理解する。

子どもの表現活動の多様性に寄り添い、大人の価値観を押しさえ付けるのではなく、子どもたちの感性をより豊かに育むための視点を身につけることが出来る。

また、模擬保育を通じて幼児における造形表現のあり方を理解し改善する視点を身に付けることが出来る。

履修のルール

制作、模擬保育を行うので動きやすく絵の具などで汚れても良い格好が好ましい。

授業計画

1. 幼児の発達段階における造形表現について・見る視点を変える
2. 幼児と造形表現活動① 色彩で遊ぶ
3. 幼児と造形表現活動② 素材について(身近な素材で遊ぶ)
4. 模擬保育活動① 模擬保育の展開準備 指導案作成
5. 模擬保育活動① 模擬保育の展開
6. 模擬保育活動② 模擬保育の展開準備 指導案作成
7. 模擬保育活動② 模擬保育の展開
8. まとめ グループ討論(良い点・反省点などを改善策について)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	制作課題の提出・指導案の提出。
レポート		
その他	100	制作課題・指導案の提出によって評価を行う。

教科書等

● 教科書等

- ・『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成 編著 萌文書林 ¥2,640(税込)
- ・授業毎にプリントを配布する。
- ・1年次購入済みの図画工作セット

● 参考書

- 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- 榎英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,530(税込)

予習・復習

- ・授業前:必要な素材、道具等は必ず準備持参する。
- ・授業後:学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計1時間

オフィスアワー

実務経験

保育内容の指導法(造形表現Ⅱ)

大松 伸洋

MT2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性	
◎ 2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・ 秋/冬		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

造形表現活動Ⅱでは主に立体制作(造る)を主体に置いた活動を行う。指導案を作成し模擬保育を行い、先生役・園児役を交互に行い、そこから感じ取れる幼児の造形表現活動の意義や、保育者として子どもの主体性を大切にしたい豊かな表現を支えるための知識や技能を身につける。

子ども達の表現における発達段階を学び、制作によって子ども達の自由な感性を豊にさせるための援助や配慮が、どうあるべきかを模擬保育を通じて検討する。

● 到達目標

造形表現活動の意義について理解する。

子どもの表現活動の多様性に寄り添い、大人の価値観を押し付けられるのではなく、子どもたちの感性をより豊に育むための視点を身につけることが出来る。

造形表現のねらい及び内容・全体構造と幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解することが出来る。また、模擬保育を通じて幼児における造形表現のあり方を理解し改善する視点を身に付けることが出来る。

履修のルール

保育内容の指導法(造形表現Ⅰ)の単位を習得済みであること。

授業計画

1. 幼児と造形表現活動① 粘土で遊ぶ
2. 幼児と造形表現活動② 立体物制作のアイデアスケッチ・準備
3. 幼児と造形表現活動③ 立体物を作って遊ぶ
4. 模擬保育活動① 模擬保育の展開準備 指導案作成
5. 模擬保育活動① 模擬保育の展開
6. 模擬保育活動② 模擬保育の展開準備 指導案作成
7. 模擬保育活動② 模擬保育の展開
8. まとめ グループ討論(良い点・反省点などを改善策について)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート		
その他	100	制作課題・指導案の提出によって評価を行う。

教科書等

● 教科書等

- 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成 編著 萌文書林 ¥2,640(税込)
- 授業毎にプリントを配布する。
- 1年次購入済みの図画工作セット

● 参考書

- 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- 槇 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,530(税込)

予習・復習

- 授業前:必要な素材、道具等は必ず準備持参する。
- 授業後:学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計1時間

オフィスアワー

実務経験

保育内容の指導法(音楽表現I)

寄 ゆかり

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。
- ・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開方法を身につける。
- ・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。
- ・ 鍵盤演奏を用いた音楽表現の指導法を習得する。
- ・ 鍵盤楽器以外の楽器の奏法を学びながら、保育に取り入れる指導法を学ぶ。
- ・ 音楽を取り入れた保育計画の立案について学ぶ。
- ・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。
- ・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。

● 到達目標

- ・ 幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。
- ・ 音楽の側面から領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。
- ・ 弾き歌いを用いた音楽表現活動を実施できる。

履修のルール

- ・ グループと個人レッスンの併用での授業実施です。両方出席すること。
- ・ グループ授業では、動きやすい服装で出席すること。
- ・ 練習のため、イヤホンを持参すること（スマホ等で使用しているものでよい）

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱い、音楽の側面から理解する / ピアノ弾き歌いレッスン
2. 保育現場における音楽表現の方法のあり方 / ピアノ弾き歌いレッスン
3. 幼小接続・学びの連続性における表現の発達を音楽の側面から理解する / ピアノ弾き歌いレッスン
4. 子どもの音楽遊び（楽器の演奏法を中心に） / ピアノ弾き歌いレッスン
5. 歌の楽しさを味わう（歌唱の指導法） / ピアノ弾き歌いレッスン
6. 子どもの音楽遊びを取り入れた活動を行う保育計画の立案 / ピアノ弾き歌いレッスン
7. 子どもの音楽遊びを取り入れた活動を行う保育計画の実施 / ピアノ弾き歌いレッスン
8. 音楽表現のまとめ / ピアノ弾き歌いレッスン
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験（35点）と弾き歌いを用いた実技試験（35点）の両方を実施する。
レポート	0	
その他	30	授業内学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況

教科書等

● 教科書等

平成29年度 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
在原章子ほか著『幼児の四季とみんなの歌（第2版）』全音楽譜出版社 ￥2,530（税込）
スケッチブック（1回生時の続きでよい。）

● 参考書

予習・復習

- ・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に様々な方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。
- ・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。

オフィスアワー

お昼休み等（研究室）

実務経験

ヤマハでの音楽教育、保育現場への研修講師などの実務経験がある。

保育内容の指導法(音楽表現Ⅱ)

寄 ゆかり

MT2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

- 保育内容の指導法(音楽表現Ⅰ)で学んだことをもとに、さらに
- ・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。
 - ・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開とその発展方法を身につける。
 - ・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。
 - ・ 様々な楽器を用いた合奏法を学ぶ。
 - ・ 情報機器を用いた保育計画の立案について学ぶ。
 - ・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。
 - ・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、音楽の側面から表現を捉え、その指導計画立案、実施を通して、その指導法を身に付ける

履修のルール

- ・ グループと個人レッスンの併用での授業実施です。両方出席すること。
- ・ グループ授業では、動きやすい服装で出席すること。
- ・ 練習のため、イヤホンを持参すること(スマホ等で使用しているものでよい)

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いにおける音楽表現の捉え方 / ピアノ弾き歌いレッスン
2. 音楽の楽しさを様々な楽器から体験する / ピアノ弾き歌いレッスン
3. 様々な楽器の奏法を学ぶ(いい音色を鳴らす) / ピアノ弾き歌いレッスン
4. 保育現場での合奏を作る / ピアノ弾き歌いレッスン
5. 子どもと合奏する場合をイメージして合奏を完成させる / ピアノ弾き歌い
6. 音楽の楽しさを味わうことを目的とした保育計画のための情報機器を用いた教材研究 / ピアノ弾き歌いレッスン
7. 合奏を発表による課題と成果を考える / ピアノ弾き歌いレッスン
8. 保育の中での行事における音楽表現のまとめ / ピアノ弾き歌いレッスン
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験(35点)と実技試験(35点)を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内で実施する学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況

教科書等

● 教科書等

平成29年度 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
在原章子ほか著『幼児の四季とみんなの歌(第2版)』全音楽譜出版社 ¥2,530(税込)

● 参考書

予習・復習

- ・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に様々な方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。
- ・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

ヤマハ音楽教室ではピアノ、エレクトーンをはじめ、打楽器、管楽器も指導。その後、保育現場への研修も行っている。

保育内容の指導法(総合表現)

大浦 知加

MT1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

- ・「音楽」「言語」「身体」「造形」表現の学びの集大成として、自分の得意な分野の力を伸ばし、自らの表現力と感性を養う。
- ・子どもたちの表現力を引き出し、見守り、援助することができる保育者を目指す。

● 到達目標

- ・子どもが表現を獲得していく過程を理解する。
- ・保育の現場における劇作りのプロセスを理解し、創造する。
- ・豊かな感性を養い、様々な表現力を身につける。

履修のルール

- ・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。
- ・造形創作時は汚れても良い服装で。
- ・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。
- ・脚本係はPC要。

授業計画

1. 劇の話と担当決め(リーダー・会計・脚本等)/ビデオ鑑賞
2. 役・分担担当決め、脚本制作チーム・造形制作チームで作業
3. 役柄別創作・音楽創作
4. 役柄・音楽練習
5. 造形・衣装・背景制作
6. 造形・衣装・背景制作
7. 造形・衣装・背景制作
8. 造形・衣装・背景・音楽を入れて練習
9. 全体通し練習
10. 全体通し練習
11. リハーサル
12. アドバイス会
13. 全体通し練習
14. リハーサル
15. 劇の振り返り

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業への参加状況 ・授業内ミニレポート、振り返りレポート ・劇作りへの取り組み状況(意欲・片付け含む) ・劇発表

教科書等

● 教科書等

- ・鈴木恵津子「改訂 うたって おどって おもちゃ箱1」教育芸術社 ¥2,420(税込)
- ・「改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」教育芸術社 ¥2,200(税込)
- ・スケッチブック¥300(税込)

● 参考書

予習・復習

- ・ダンス動画を観て参考にする。
- ・舞台やテレビ、映画等での、役者の話し方や目線、動き方、話の起承転結を参考にする。
- ・造形創作が始まったら、休み時間や放課後等の空いている時間に制作をしても良い。

オフィスアワー

実務経験

教育制度論

今滝 憲雄

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
○	2.知識・技術	◎	4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

教育制度に関する基礎的知識を身につけ、その仕組みを理解し、現代的課題に向き合う力量を養う。また学校園が地域で果たす役割を理解し、連携を図りながら安全と安心の中で過ごせる学校園づくりに必要な知識を養う。

● 到達目標

教育制度とその課題を理解し、どのような学校園づくりを進めるか、自分なりの見解を表現することが出来る。

履修のルール

教職を志す受講生であるという自覚に基づき、受講者間における問題意識や考え方について積極的な意見交流を望む。

授業計画

1. 教育制度の基本的理解
2. 教育法のしくみと学校園
3. 教育基本法からみる学校園
4. 教育委員会制度と地方教育行政
5. 子どもの権利について
6. 幼稚園・保育園・認定こども園について
7. 教育行政からみる課題
8. 学校制度と経営
9. 教職員の制度
10. 学校園の安全を守る制度
11. 学校園の安全を守る教職員の役割
12. 子育て支援制度と学校園の役割
13. 地域に開かれた学校園づくり
14. 現代の教育改革をめぐる
15. 学校園づくり試論

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	平常点 30 点 (参加状況および積極的参加態度) に加え、授業中に課す提出物 40 点 (5 種類を予定)。最終課題 30 点。合計 100 点。

教科書等

● 教科書等

毎回レジュメおよび資料を配布する。

● 参考書

授業中に適時、紹介する。

予習・復習

各テーマ毎に資料類を再読し、最終レポートの作成に向けて自分なりの意見をまとめておくこと。また事前に配布する資料に関しては、予習を行うこと。

オフィスアワー

水曜日の授業前後。7 階研究室。

実務経験

特別支援教育・保育演習

宮本 直美

MB2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感			3.探究・主体性
2.知識・技術			4.人権・共感
◎			
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏		[保必]

授業内容

● 目的と概要

障がいのある子どもの保育の計画を作成できるようになる。
個別支援及び子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題について理解する。

● 到達目標

障がい児保育の実際について理解する。
保護者や家族に対する援助の方法についてを理解する。
職員間の連携、関係諸機関との連携について理解する。
障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題について考察できる。

履修のルール

特別支援教育を履修済みとして授業を行う。様々な障がいの概要について理解しておくこと。

授業計画

1. 「障がい」の概念と障がい児保育の概要
2. 発達障がいのある子どもへの支援の実際
3. 特別な配慮を要する子どもへの援助の実際
4. 療育現場における具体的な療育の取り組み
5. 個々の発達を促す生活や遊びの環境
6. 子ども同士のかかわりと育ち合い
7. 職員間の連携と協働
8. 就学相談と小学校との連携
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、ミニレポート、確認テスト、作成物等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・1 回生科目、特別支援教育で使用したテキストを引き続き使用する。(尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援 教育・保育概論』萌文書林)
- ・副教科書 『PriPri 特別編集 発達支援「困った!」を抱える子の保育』世界文化社 ¥1,760(税込)
- ・画用紙・ラミネートフィルムを用意すること

● 参考書

予習・復習

初回の授業において全体の流れと到達目標について説明する。次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金のお昼休み

実務経験

保育方法論

馬場 住子

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保選]

授業内容

● 目的と概要

保育方法に関する基礎的知識および遊びや生活の指導方法を知るとともに集団保育におけるさまざまな保育方法を学修する。園における具体的保育方法について「遊び」「生活」「行事」「課題」「プロジェクト」の主活動例を知る。また、テキストの解説を基に地域や家庭、異文化理解、小学校との連携の観点からの保育の方法と援助についても学修する。さらに、グループワークや自らが主体的に指導方法を考える演習を通し、保育方法への理解を深める。

● 到達目標

1. 保育方法に関する基礎的知識および遊びや生活の指導方法を理解する。
2. 集団保育におけるさまざまな保育方法を理解する。
3. 園における具体的保育方法について「遊び」「生活」等の活動を基に理解する。
4. 地域や家庭、異文化理解、小学校との連携の観点からの保育の方法と援助について理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション—保育方法とは—
 2. 園での遊び活動—遊びの体験—
 3. 生活活動の指導方法と援助—当番活動・グループ活動—
 4. 課題活動の指導方法と援助—さまざまな課題活動—
 5. 行事活動の指導方法と援助—運動会・生活発表会—
 6. プロジェクト活動の指導方法と援助—共同的な学び—
 7. 異文化理解教育の方法・技術
 8. 保護者支援・地域連携の方法
 9. 遊びの指導方法の実践 (1) —遊びの指導方法を考える—
 10. 遊びの指導方法の実践 (2) —遊びの指導方法の実践準備—
 11. 遊びの指導方法の実践 (3) —遊びの指導方法の実践—
 12. 遊びの指導方法の実践 (3) —遊びの指導方法の実践—
 13. 遊びの指導方法の実践の振り返り
 14. 小学校「生活科」の指導方法—幼小連携の視点から—
 15. 総括—保育の評価の方法—
- 保育方法への理解を深めるための演習を含みます。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業への参加状況、レポート等の提出物、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

豊田和子他編『実践を創造する幼児教育の方法』みらい
¥2,200 (税込)

● 参考書

- ・厚生労働省編著『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)
- ・文部科学省著『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)

予習・復習

- 予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと
- 復習：配付資料などを参考に授業内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

実務経験

乳幼児理解

茂野 仁美

MB1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

乳幼児期の発達には生涯の中で、短期間での劇的な変化を遂げる時期である。乳幼児期の発達課題についての学びを深め、現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解について考察することを目的とする。

● 到達目標

乳幼児期の発達課題について習熟を深める。

現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解を踏まえた援助や支援の概要について理解する。

履修のルール

授業計画

1. 保育における子ども理解
2. 子ども理解における発達の観点①遊びを通して
3. 子ども理解における発達の観点②おもちゃを通して
4. 保育における観察と記録の実際
5. 記録に基づく保育カンファレンス
6. 子どもの特別なニーズの理解と援助
7. 保育者と発達相談
8. 保護者理解と援助の基本
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業内課題レポート 60% 演習発表（グループワークでの態度や積極性も含む） 40%

教科書等

● 教科書等

高嶋景子・砂上史子 『新しい保育講座③子ども理解と援助』
ミネルヴァ書房 ￥2,420（税込）

● 参考書

大浦賢治『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ
書房 ￥2,420（税込）（教育心理学で使用する教科書と同一
のものです）

予習・復習

演習の振り返りとして、理論と実践を結び付けられるよう、教科書をよく読むこと。

オフィスアワー

月、木の昼休み

実務経験

教育相談

本田 和隆・宮本 直美

MB1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術	○	4.人権・共感	
単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

保育者の業務が社会環境の変化を受けて、施設の子どもに対する保育からすべての子どもと保護者に対する子育て・子育て支援へと広がりを見せてきた。

そのような中で、保育者の専門性を活かした保育・教育相談の意味を理解する必要がある。子どもの発達状況に即しつつ、心理的特質や教育的課題を支援するために必要な基礎的事項を身に付け、子どもとその家庭を包括的に捉えた教育相談について理解できるようになることを目的とする。

● 到達目標

教育相談における心理学の基礎的な知識を身に付ける。

教育相談の意義と課題について理解するとともに、組織的な取組みや連携の必要性についても理解する。家族や家庭について、構成員の相互作用に注視しながら、一つのまとまりとして捉える視点を習得する。

履修のルール

授業時に指示する。

授業計画

1. 保育・教育相談の意義と基本的視点
2. 保育・教育相談の流れ・方法
3. 保育・教育相談を進めるための基礎的な姿勢や技法
4. 保護者との信頼関係を築くために（本田）
5. 家族・家庭の意義と機能（本田）
6. 親子関係・家族関係の理解（本田）
7. 子育ての経験と親としての育ち（本田）
8. 家族システムと教育相談
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、グループワーク、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

予習については授業中に指示する。各自、授業で使用したプリントや授業ノート等をを活用して復習しておくこと。

オフィスアワー

授業後可能な限り対応します。

実務経験

小学校の通常の学級の担任として、保護者に対する教育相談を行った（宮本直美）。

教育実習

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MB2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
○ 2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	実・4	回数	
年次 学期	1年夏集・ 2年夏集		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。
- 教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どもとのかわり方を理解する・子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ
- 保育計画（保育指導案）の立案および実施できる・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 1回生時「観察実習（1週間）」、2回生時「本実習（3週間）」を行う。
- 事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

〈実習に関わる内容〉・訪問指導・実習記録、指導案に関わる指導・子ども理解と関わり方への指導・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価（75%） ・実習日誌（25%）

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540（税込）
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

予習・復習

毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと

オフィスアワー

実務経験

教育実習指導

板倉 史郎・本田 和隆

MB1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年通・ 2年春夏		[幼必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画（保育指導案）が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと（板倉研究室）
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全15回を2年間にわたって履修

授業計画

1. オリエンテーション（教育実習とは）
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題（カード作成）
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
12. 教育実習の目標と課題（カード作成）
13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）(30%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・授業における参加状況(15%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540（税込）
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

授業内で紹介する

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育・教職実践演習

板倉 史郎・松浦 善満

MB2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保必]

授業内容

● 目的と概要

保育・教職に関する科目の学習及び保育実習、教育実習、学校外の活動などを通して、保育・教職に関する基礎的知識と技能が獲得できたかを確認し、保育・教職についての理解と職業意識を深める。

● 到達目標

- ・保育者、教育者として使命感、情熱を持つ姿勢が身についている。
- ・保育施設で働く上での社会性や対人関係能力について理解し、実践できる。
- ・子ども理解の意味を認識した上で、その取組方法について理解できている。

履修のルール

授業計画

1. 科目「教職実践演習」が設けられた趣旨及び授業の目的と方法についてオリエンテーションを行う。(合同)
2. 学校の種類、教員の研修、服務など教員の使命感、責任感、教育的愛情に関する事項について教員としての職務を理解しているか。教職論の内容が定着しているかを確認の講義を行う。
3. 教員として必要な社会性や対人関係能力に関する事項について、教員の服務について多様な事例を取り上げ演習方式で学生参加の授業を行う。世代間、男女間、幼児・教員間、教員間の理解を深めるにはなにが必要か。行動特性の違いをどう把握するかについて理解を深める。
4. 現実の園や学校で生じている課題についてチームとして教員の協力・協働を深めるにはどのような態勢が必要か具体的な課題について議論し総括する訓練を行う。
5. 社会性や対人関係能力深めるため、自己紹介、父母への園の紹介(自己表現)、園児の父母の前で伝えたいことを話すために準備しておくことはなにかなどの役割演技(ロールプレイ)を行う。
6. 幼児、児童、生徒にはどのような発達上の特徴があるか。コミュニケーションをする上での留意点について幼児、児童、生徒理解や学級経営の視点から問答方式により理解を深める。
7. 教育実習参加者の報告、実習中で、失敗したこと、感激したことなど、強く意識したこと等を各自3分程度にまとめて発表する。2～6回までの内容再確認の小テストを行う。
8. 実習等を振り返り、身につけたい自分の課題を明らかにし、そのための方策を検討する。
9. 実習において遭遇した場面において、どのような対応が必要であったか検討する。
10. 子どもたちが置かれている現状について、いくつかの視点から検討し、深く学ぶ。
11. 保育施設や保育者が置かれている現状を確認し、保育者のやりがいを確認する。
12. 保・幼・小連携の必要性と取り組まれている事例、求められる実務について学ぶ。
13. 保育者に求められる専門性について、子ども、保護者、社会をキーワードに考える。
14. 保育者に求められる倫理について、普遍的な観点と現代的な観点から確認する。
15. 保護者対応の考え方について確認するとともに、基本的な姿勢について学ぶ。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート		
その他	100	授業への参加状況、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

授業時に配布する。

● 参考書

予習・復習

- ・配布する資料等を整理し、活用する。
- ・授業時に予習、復習について説明する。

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校教員の経験を活かして、子ども理解や保護者対応、幼小連携等について、知識や対応を説明する。

社会的養護Ⅱ

本田 和隆

MW2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		○	4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[保必]

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

社会的養護の講義で学んだ理論を踏まえ、家庭的養護・施設養護の具体的な実践内容と支援方法について理解を深める。5月には福祉施設実習を控えているので、実際の現場に立ってより学べるような準備をしておきたい。

【授業の概要】

社会的養護に係る児童を対象とした施設養護及び家庭的養護の実際を学ぶ。具体的には、児童の日常生活支援をはじめ、発達、教育、心理、治療、自立および家庭への支援方法と、そのための施設内外における連携方法について理解を深める。実際の事例やグループワークなどを通じて、必要とされる能力や技術の獲得、向上を目指すとともに、現場実践への具体的なイメージを持てるようにする。合わせて、社会的養護分野における保育士の専門性が果たす役割について考察する。

● 到達目標

- ・児童福祉施設（乳児院・児童養護施設・障害児施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設）および里親家庭における養護の実際を、具体的にイメージすることが出来る。
- ・現場における課題遂行や問題解決のためのチーム・ワークの重要性と必要性を認識し、多様なメンバー構成においても、有意義な議論や協働作業を行うことが出来る。

履修のルール

5月の施設実習（実習指導や福祉施設実習）を意識して、どんなことを学んだ方が良いのか、実際の現場ではどんな役割が求められるのかについて深く考え、イメージして臨むこと。

授業計画

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の生活特性及び実際
3. 家庭養護の生活特性及び実際
4. 社会的養護における支援の計画と記録及び評価
5. 社会的養護に関わる専門技術
6. 養護内容の理解と施設実習の振り返り①
7. 養護内容の理解と施設実習の振り返り②
8. 社会的養護の課題と展望
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	本試験の評価方法は、①授業内のミニテスト（60%）、②授業参加状況や取り組む姿勢（40%）の合計点により総合評価する

教科書等

● 教科書等

- ・適宜、プリントを配布する。
 - ・辰巳隆・波田瑠英治編『新版 保育士をめざす人の社会的養護Ⅰ』みらい ¥2,310（税込）
- ※『社会的養護Ⅰ』の教科書

● 参考書

都度、紹介する。

予習・復習

社会的養護Ⅰで使用した教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わるニュースに関心をもっておくこと。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

子ども家庭支援の心理学

宮本 直美・本田 和隆

MW1L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性		
2.知識・技術	4.人権・共感		
◎			
単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[保必]

授業内容

● 目的と概要

園などの施設で子どもに関わるうえで、子どもの発達に関する知識と共に、その子どもたちを取り巻く親なども含めた包括的な理解が求められる。この科目では、生涯にわたる発達について理解し、子どもだけではなく周りにいる大人や社会的背景を含めたうえで子ども理解を目指す。

● 到達目標

親と子の生涯にわたる発達に関する基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。

履修のルール

「幼児と人間関係」で学んだ人とのかわりに関する発達についてよく復習し、理解したうえで受講すること。

授業計画

1. 生涯発達の考え方と生涯発達から見た心の問題と家族
2. 乳幼児期の発達
3. 学童期前半の発達
4. 学童期後期から青年期にかけての発達
5. 成人期・老年期における発達（本田）
6. 子どもの生活・生育環境とその影響
7. 子どもの心の健康に関わる問題
8. 特別な配慮を要する家庭への配慮・支援に当たってのポイント
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	40	筆記試験
レポート		
その他	60	授業への参加状況、授業中の振り返りや確認テストで評価する。

教科書等

● 教科書等

青木紀久代編『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』みらい ¥2,310（税込）

● 参考書

予習・復習

各会の授業内容に相当する教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に参加すること。授業で使用したプリント等を活用して、復習しておくこと。復習課題の提出については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

小学校において特別支援教育コーディネーターとして、特別な支援を必要とする家庭への援助や支援を行った（宮本）。

子どもの食と栄養

人見 玲子

MW1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	2.知識・技術	4.人権・共感
◎			
単位	演・2	回数	23
年次 学期	2年・春秋冬		[保必]

授業内容

● 目的と概要

栄養の基礎を理解し、「健康な食」とは何か、考える。
子どもの発達に合わせた食の支援を学び、調理実習で確認する。
食育について学ぶ。

● 到達目標

子どもの発達に応じた食の支援が行える。
食と栄養の知識を自身の健康管理に応用できる。
食育の重要性を理解して、子どもや保護者への支援が行える。

履修のルール

調理実習時はエプロン・ハンドタオルを持参すること

授業計画

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの食の現状と課題 2. 栄養の基礎知識 3. 離乳期の食と栄養 4. 幼児期の食と栄養 5. 妊娠・授乳期の食と栄養 6. 学童・思春期の食と栄養 7. 食育 8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 9. 授乳・離乳の支援 10. 調理実習 (1) 調乳 11. 調理実習 (2) 生後 5～6 か月頃の離乳食 12. 調理実習 (3) 生後 7～8 か月頃の離乳食 13. 調理実習 (4) 生後 9～11 か月頃の離乳食 14. 調理実習 (5) 生後 12～18 か月頃の離乳食 15. 幼児期の食の問題と支援 | <ol style="list-style-type: none"> 16. 調理実習 (6) 幼児食 17. 調理実習 (7) 食物アレルギー 18. 調理実習 (8) 間食 19. 栄養価計算と献立作成 20. 自由献立作成 21. 調理実習 (9) 食育 22. 調理実習 (10) 自由献立実習 23. 子どもの発達に合わせた食の支援 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. |
|---|--|

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験
レポート	0	
その他	50	授業時間内の小レポート・実習レポート、調理実習への参加姿勢 小レポート 30 演習に取り組む姿勢 20

教科書等

● 教科書等

小川雄二編著『子どもの食と栄養演習 第5版』建帛社
¥2,970 (税込)

● 参考書

予習・復習

授業中配布するプリントを参考に、あらかじめ教科書を読んでおく。
授業後は、各自プリントをまとめておくこと。

オフィスアワー

実務経験

乳児保育Ⅱ

馬場 住子

MW2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
	1.情熱・使命感・責任感		3.探究・主体性
◎	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏		[保必]

授業内容

● 目的と概要

乳児保育Ⅰで学んだ内容を踏まえ、0、1、2歳児の心身の発達過程や特性を確認し、保育における保育者の基本について理解できるようにする。また、0、1、2歳児の基本生活習慣における援助や環境について理解し、環境構成や配慮の実践について学修する。玩具づくりや保育計画の作成、模擬保育等実践を取り入れた授業を行う。

● 到達目標

1. 3歳未満児の発達過程や特性を踏まえた関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びと保育方法および環境について理解する。
3. 乳児保育における配慮や援助について具体的に理解する。
4. 乳児保育における計画の作成について演習を通して理解する。

履修のルール

授業計画

1. オリエンテーション -0、1、2歳児の発育と発達 -
2. 0、1、2歳児の保育内容における援助と環境
3. 0、1歳児の保育方法と遊び (1) - 手づくり玩具づくり -
4. 0、1歳児の保育方法と遊び (2) - 手づくり玩具による遊び -
5. 乳児保育における配慮・計画の作成 -2歳児の指導案作成 -
6. 乳児保育における配慮の実践 - 模擬保育実践 -
7. 乳児保育における計画の実践 - 模擬保育の振り返り -
8. 総括 - 本授業における学びの振り返り -
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

乳児の玩具づくりなどの費用は自己負担となります。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、制作物・指導案等の提出物、授業態度による評価 (100%)

教科書等

● 教科書等

善本眞弓編著『演習で学ぶ 乳児保育』 わかば社 ¥1,760 (税込)

● 参考書

予習・復習

予習：シラバスを参考に教科書を読んでおくこと

課題に応じて教材の作成や演習の準備をしておくこと

復習：演習内容を振り返っておくこと

オフィスアワー

実務経験

子育て支援

宮本 直美

MW1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性	
2.知識・技術		4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[保必]

授業内容

● 目的と概要

保育士による子育て支援の特性や実践的な事項（支援の具体的内容・方法・技術、事例検討の実際など）について学び、保育の専門性を活かした子育て支援に関する実践力を養うことを目的とする。

● 到達目標

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

履修のルール

「子ども家庭支援論」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。
履修上の注意については、最初の授業時に指示する。

授業計画

1. 保育士が行う子育て支援の特性
2. 子育て支援の計画と環境構成
3. 子育て支援の具体的手段
4. 子育て支援の技術
5. 子育て支援の実際①保育所等における子育て支援
6. 子育て支援の実際②子どもの虐待の予防と対応
7. 子育て支援の実際③多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と支援
8. 子育て支援の実際④要保護児童等の家庭に対する支援
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業の内容から課題を設定し、レポートを課す。到達目標の観点から評価を行う。授業への参加状況、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ① 「最新 保育士養成講座」総括編集委員会／編
『子ども家庭支援 家庭支援と子育て支援』全国社会福祉協議会 ￥2,090（税込）
（1回生で購入済み）
- ② 二宮祐子『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林 ￥1,980（税込）

● 参考書

予習・復習

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

小学校において特別支援教育コーディネーターとして、特別な支援を必要とする家庭への子育ての援助や支援を行った。

保育実習 I (福祉施設)

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MW2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・春集		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。

保育実習 I (福祉施設) では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・ 児童福祉施設の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・ 保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・ 保育計画 (自立支援計画) の立案を学ぶ
- ・ 保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・ 保育に対する考え方を深める

履修のルール

- ・ 保育実習指導 I (福祉施設) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- ・ 宿泊が伴う場合、宿泊費などは自己負担となる。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

〈実習に関わる内容〉 ・ 訪問指導 ・ 記録、指導案に関わる指導 ・ 子ども、利用者理解と関わり方への指導

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・ 実習施設による評価 (75%) ・ 実習日誌 (25%)

教科書等

● 教科書等

- ・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥600
- ・ 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)

● 参考書

予習・復習

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

オフィスアワー

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習指導 I (福祉施設)

板倉 史郎・本田 和隆

MW1E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	1 年秋冬・ 2 年春		[保必]

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (福祉施設) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・福祉施設の制度的理解を深める
- ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設の実習とは)
2. 福祉施設実習の必要性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化
5. ソーシャルスキルに関わる演習
6. 福祉施設実習記録の書き方①
7. 福祉施設実習記録の書き方②
8. 保育計画指導案の立て方①
9. 実習先の制度的理解
10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①
12. 実習に関わる演習②
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%) ・授業における参加状況 (15%) ・実習課題提出、到達状況 (35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥600

● 参考書

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習Ⅱ

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MW2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・夏集		[保選]

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）の内容をふまえた応用実習である。乳児、障害児も対象とした、実習経験の集大成となる責任実習である。実習を通じ、保育士として必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。

● 到達目標

- ・保育士として必要な資質、技能を習得する
- ・子どもの発達に応じた教材選択ができる
- ・教材研究の姿勢を身につける
- ・保育計画（保育指導案）を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる
- ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する
- ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う

履修のルール

保育実習指導Ⅱへの事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

授業計画

1. 実習ハンドブックほか 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

〈実習に関わる内容〉

- ・訪問指導
- ・実習記録、指導案に関わる指導
- ・子ども理解と関わり方への指導
- ・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価（75%） ・実習記録の内容（25%）

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540（税込）
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

予習・復習

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

オフィスアワー

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習指導Ⅱ

板倉 史郎・本田 和隆

MW2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・春夏秋		[保選]

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

本授業は、保育実習Ⅱに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

【授業の概要】

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子ども理解と豊かな実践力の応用を養うこと、子どもを取り巻く環境を子育て支援、地域支援の立場から観察し、保育実践を行う。

● 到達目標

- ・子どもの発達や成長を理解した実習記録が書ける。
- ・子どもの発達を見据えた指導計画案が立案できる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・子育て支援、地域支援の目的、目標が理解できる。
- ・保育者として必要な力を身に着けている。

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと（板倉研究室）
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

授業計画

1. オリエンテーション（保育実習Ⅱの位置づけと取組）
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化
3. 実習手続きと実習生カード作成
4. 保育者から見た実習日誌の書き方
5. 実習生に求められる力
6. 多角的に見る実習とその記録の書き方
7. 応用的な計画（保育案）の立案
8. 保育計画案の実施
9. 保育計画案の改善ポイント
10. 子育て支援と保育環境
11. 保育者に必要とされる専門性
12. 保育所の役割と地域支援
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会 まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）（30%） ・授業における参加状況（15%） ・実習課題提出、到達状況（35%） ・実習後の振り返り、まとめ、報告（20%）

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ￥1,540（税込）
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）￥600

● 参考書

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習Ⅲ

板倉 史郎・本田 和隆 ほか

MW2T

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・夏集		[保選]

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育実習Ⅰ（保育所）の内容をふまえた応用実習である。実習経験の集大成となる指導実習である。実習を通じ、福祉施設職員に必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。

● 到達目標

- ・保育士として必要な資質、技能を習得する
- ・子どもの発達に応じた教材選択ができる
- ・教材研究の姿勢を身につける
- ・自立支援計画を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる
- ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する
- ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅲの出席が4/5に満たない者は実習への参加を認めない。
- ・課題は期日厳守で必ず行うこと
- ・児童館実習を行うものは「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を同時に履修すること。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

〈実習に関わる内容〉

- ・訪問指導
- ・子ども理解と関わり方への指導
- ・実習記録、指導案に関わる指導
- ・現場にて受けた指導内容の確認等

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価（75%） ・実習日誌（25%）

教科書等

● 教科書等

本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

予習・復習

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

オフィスアワー

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

保育実習指導Ⅲ

板倉 史郎・本田 和隆

MW2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	◎	3.探究・主体性
	2.知識・技術		4.人権・共感
単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・春夏秋		[保選]

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

【授業の概要】

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子どもや障害者理解と豊かな実践力の応用を養うこと、および学童保育、障害者施設などを利用する利用者を取り巻く環境を理解することを目的としている。保育実習指導Ⅲでは、実施される保育実習Ⅲの実習のための事前・事後指導を行う。児童館や障害者施設での現状を理解し、そこで求められる保育の力量を高めるための講義・演習を行う。

● 到達目標

- ・保育実習Ⅲの内容に即した事前準備ができる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・学童保育や障害児・者施設の制度的理解を深める。
- ・学童保育、障害児・者施設を利用する利用者の背景も理解し、必要とされる支援の方法を模索できる。
- ・学んだ知識に基づき、保育計画やレクリエーション案が立案できる。

履修のルール

- ・児童館実習者は「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を履修すること
- ・本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行う。事前指導は4/5以上の出席で保育実習Ⅲに参加できる。

授業計画

1. オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけと取組）
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化
3. 実習手続きと実習生カード作成
4. ソーシャルスキルに関わる演習①グループディスカッション
5. ソーシャルスキルに関わる演習②実習に必要な力
6. 実習日誌（記録）の書き方
7. 実習日誌（記録）に必要なことを書くために
8. 応用的な計画（レクリエーション案や保育案）の立案
9. 実習先の制度的理解
10. 保育者に必要とされる専門性
11. 実習生として福祉施設で学ぶこと
12. 施設の役割と地域支援
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会 まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）（30%） ・実習課題提出、到達状況（35%） ・授業における参加状況（15%） ・実習後の振り返り、まとめ、報告（20%）

教科書等

● 教科書等

本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥600

● 参考書

予習・復習

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において実習担当として指導にあたった経験をもとに、実習生として大切にすべきことを中心に知識や対応を指導する。

児童館の機能と運営

本田 和隆

MW2L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・春夏		[保選]

授業内容

● 目的と概要

本講義は児童厚生指導員の資格取得をめざす学生に対して開講している講義科目である。2年生時における保育実習Ⅲ（児童館実習）に向けて、児童福祉施設（児童館）の意義や機能について学ぶ。

● 到達目標

児童館・児童クラブ等の社会的役割と機能、その運営方法や指導員が果たしている役割を理解し、子どもにとって安心・安全な環境づくりを提案できる力を身につける。

履修のルール

7月に児童館の視察や取り組み（移動児童館）を見学、体験学習する予定。（体験学習にあたっては、交通費や昼食などは自己負担となる。）

授業計画

1. 児童館の現状と課題
2. 児童館における遊びの支援
3. 児童館における個別的・集団的援助
4. 遊びを通じた健康・体力の増強指導
5. 児童館における文化活動・メディア活用プログラム
6. 児童館における表現活動プログラム
7. 児童館における自然体験プログラム
8. 児童館における中高生への対応
9. 児童館における放課後児童健全育成事業
10. 児童館における障害児支援事業
11. 児童館における世代間交流事業
12. 児童館における子育て支援事業
13. 児童館と地域福祉活動
14. 児童厚生指導員の資質と役割
15. まとめ—児童館が地域に果たす役割とは

資料と講義内容に基づき、ミニレポートを行うので、必ず講義録を作るようにすること。講義録は、夏の児童館実習で活用出来ます。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	55	レポート試験における評価
その他	45	授業への参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

● 参考書

社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱのテキストや配布資料、福祉小六法

予習・復習

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明する。毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

児童館の活動内容と指導法

飯島 仁美

MW2L

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬集		[保選]

授業内容

● 目的と概要

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。

児童館・放課後児童クラブにおける一年の活動内容の理解と企画立案方法について学ぶとともに、実際の「遊び」を通じた仲間づくりや学習支援方法を学ぶ。また、「支援」を通じた個別ケースの関わり、地域における子育て活動、ボランティアの育成、地域連携について学ぶ。

● 到達目標

児童館や放課後児童クラブの現場における、児童に対する「遊び」「指導」「支援」の具体的方法を習得する。特に、児童館の源流である「セツルメント活動」を理解し、地域の拠点としての多様な地域福祉の視点を身につける。

履修のルール

児童館の視察あり。視察にあたっては、交通費や昼食などは自己負担となる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 児童館・放課後児童クラブの年間・月間・週間計画の流れと活動のねらい
3. 子ども達のニーズと地域を意識した行事やイベントの企画立案
4. 児童館・放課後児童クラブの一日の流れと活動のねらい
5. 児童館・放課後児童クラブにおける遊びと環境構成
6. 「遊び」の実際と具体的展開（演習）
7. 小学生の仲間づくり・居場所づくり
8. 児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援
9. 児童館・放課後児童クラブにおけるソーシャルワーク
10. 「支援」の実際とグループワーク（演習）
11. 「支援」の実際とケースワーク（演習）
12. 子育て支援活動
13. ボランティアの育成・支援
14. 保護者・学校・地域との連携
15. まとめ

資料と講義内容に基づき、ミニレポートを行うので、必ず講義録を作るようにすること。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	55	
その他	45	出席状況、日頃の質問に対する発言内容、ミニレポートの結果（45%）と、レポート課題の結果（55%）により、総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、社会的養護内容のテキストや配布資料、福祉小六法

予習・復習

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

オフィスアワー

講義終了後に質問を受け付けます。

実務経験

こども音楽療育演習

茂野 仁美

MA2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・ 夏,夏集		[保選]

授業内容

● 目的と概要

- ・様々な楽器を演奏し音楽療育プログラム案の中で活用できる。
- ・手遊び、音楽身体遊び、歌唱を音楽療育プログラム案に取り入れ実践できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが作成できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが実践できる。

● 到達目標

- ・様々な楽器を演奏し音楽療育プログラム案の中で活用できる。
- ・手遊び、音楽身体遊び、歌唱を音楽療育プログラム案に取り入れ実践できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが作成できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが実践できる。
- ・音楽プログラムの作成と実践において、障がいの種別での配慮する点を理解している。

履修のルール

- ・本科目受講にあたっては、こども音楽療育概論の単位を習得済みであること。
- ・本科目は「こども音楽療育実習」と同時開講である。「こども音楽療育士」資格取得希望の学生は、両方とも受講すること。
- ・実際に障がいの子どもたちと関わる場合もあるので、体調管理には留意すること。

授業計画

1. はじめに
2. 音楽療育での楽器の活用法① - 小物楽器を中心に
3. 音楽療育での楽器の活用法② - 音楽療法用楽器
4. 手遊び・歌遊び・身体遊びを使用した発達援助の方法と実践
5. 障がい種別による音楽療育の方法
6. 発達援助をふまえた、音楽プログラムの作成
7. 障害児者施設での演習セッション①
8. 障害児者施設での演習セッション②
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	・筆記試験(音楽プログラム作成)(50%)
レポート		
その他	50	・授業内でのグループ発表達成状況(15%) ・授業時に提示する課題の提出状況と到達度(20%) ・チームの一員としてのグループワークへの取り組み状況(15%)

教科書等

● 教科書等

授業時にプリントを配付する。

● 参考書

授業時に紹介する。

予習・復習

- ・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。
- ・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。

オフィスアワー

実務経験

しょうがい児のための音楽療法サークルの運営と実践のほか、小学校の支援学級に在籍の児童を対象に音楽療法のセッションを行ってきた。

こども音楽療育実習

茂野 仁美・寄 ゆかり

MA2P

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○	1.情熱・使命感・責任感	3.探究・主体性	
◎	2.知識・技術	4.人権・共感	
単位	実・1	回数	23
年次 学期	2年・ 秋,秋冬集		[保選]

授業内容

● 目的と概要

- 「こども音楽療育概論」で学んだ知識、技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。
- ・「こども音楽療育演習」で学んで作成した様々な対象者に合わせて作成したプログラムをもとに、実践する。
 - ・療育や保育現場において、発達を援助するための効果的な音楽の奏法を習得する。
 - ・保育の現場での実習を行い、音楽による具体的な援助法を学び、自らの振り返りをおこなうことにより、実習を質の向上をはかる。

● 到達目標

- ・現場に合わせた音楽プログラムを作成することができる。
- ・現場にあわせた音楽プログラムを実施することができる。
- ・療育や保育現場における、発達を援助するための効果的な音楽奏法を用いることができる。
- ・プログラムを実施するための演奏技術を身につける。

履修のルール

- ・「こども音楽療育概論」の単位を履修済みであること。
- ・「こども音楽療育演習」を並行して受講すること。
- ・本科目では、実習前指導、実習、事後指導を含めた科目である。
- ・事前事後指導のみでの単位取得は不可。

授業計画

1. 音楽療育の手順① (対象者の査定)
2. 音楽療育の手順② (目標の設定)
3. 音楽療育の手順③ (プログラムの作成)
4. 現場観察実習①
5. 現場観察実習②
6. 現場部分実習①
7. 実習の振り返りと改善点、改善案をもとにしたプログラム案作成
8. 音楽療育体験実習① (保育所一統合保育)
9. 音楽療育体験実習② (保育所一統合保育)
10. 音楽療育体験実習① (地域ワークショップ)
11. 音楽療育体験実習② (地域ワークショップ)
12. 音楽療育体験実習③ (地域ワークショップ)
13. 音楽療育参加実習① (こども園一統合保育)
14. 音楽療育参加実習② (こども園一統合保育)
15. 実習の振り返りと実習報告書作成

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習での参加状況 (70%) ・プログラム・実習振り返りレポート (30%)

教科書等

● 教科書等

音楽療育学外実習 一部、交通費自己負担

● 参考書

授業内で紹介する。

予習・復習

- ・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。
- ・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。

オフィスアワー

お昼休み等 (研究室)

実務経験

ゼミナールⅡ

各ゼミ担当

MS2E

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/>	1.情熱・使命感・責任感	<input checked="" type="radio"/>	3.探究・主体性
<input type="radio"/>	2.知識・技術	<input type="radio"/>	4.人権・共感
単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]

授業内容

● 目的と概要

幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文や作品発表などの研究を進める。最終は年度末に行う卒業発表会や、卒業論文の形でまとめる。方法や形態は各ゼミナールごとの計画表による。

● 到達目標

- ・研究することの意味を理解できる。
- ・自らの学びを論文、作品発表などで表現する力を身につけている。

履修のルール

各ゼミの専門研究を中心とし、進める。ゼミごとの計画については、授業時に説明する。

授業計画

1. 各ゼミ計画表による
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	各ゼミ計画表による

教科書等

● 教科書等

● 参考書

予習・復習

オフィスアワー

実務経験